

# 草津市 笠縫学区 地区防災計画

地震編・風水害編



笠縫学区まちづくり協議会

令和5年(2023年)3月改定版

# 目次

笠縫学区の防災目標	.....	2
笠縫学区の概要	.....	3
地区防災計画の対象	.....	4
笠縫学区で想定される被害	.....	5
笠縫学区のまち点検	.....	13
笠縫学区の災害対応体制	.....	15
町内会ごとの避難体制	.....	20
今後の課題	.....	69
おわりに	.....	70

# 笠縫学区の防災目標

## 「災害に強いまちづくり」

笠縫学区の防災目標は「災害に強いまちづくり」です。笠縫学区は琵琶湖西岸断層帯による直下型地震、南海トラフ巨大地震、風水害などによる被害が懸念されています。災害が発生しても、誰一人取り残さないために、日頃から学区全体の力を結集して地震と風水害に備え、各災害発生時には適切に対応できる体制づくりが求められます。

「笠縫学区地区防災計画」では、災害発生時から広域避難所へ避難するまでの流れと、各町内会で取り組まれている防災活動や避難体制を共有し、学区全体の力を発揮して、災害に打ち勝つための指針を策定しました。

地域のつながりを活かし、誰一人取り残さないためにも「災害に強いまちづくり」を進めていきましょう。

# 笠縫学区の概要

草津市の西部に位置する笠縫学区は、草津駅西口近くから琵琶湖岸までの東西に長い地域で、学区の面積は約5km<sup>2</sup>です。

野村・上笠地域は、昭和44年(1969年)の草津駅西口の完成から、市街化が進みベッドタウンとして発展を続けています。一方、西側が琵琶湖に面した田園地帯の下笠地域は、自然豊かで風光明媚な地域として現在に至っています。

住民基本台帳によると、令和2年(2020年)1月31日現在、学区全体の人口は11,106人、世帯数は4,688世帯、65歳以上の高齢者の割合は29.8%です(P12表1参照)。

高齢者の割合は他の学区と比較すると、3番目に高い値を示しています。



図1 笠縫学区マップ

# 地区防災計画の対象

笠縫学区地区防災計画で想定するハザードは「地震」と「風水害」です。

「地震」では、琵琶湖西岸断層帯等の直下型地震と南海トラフ巨大地震の海溝型地震に対して、起こり得る被害の想定と、地震発生直後から広域避難所までの住民と行政の対応計画について示しています。

「風水害」では、草津川放水路やため池・用水路による内水氾濫に対して、起こり得る被害の想定と、氾濫発生を見据えた避難の対応計画について示しています。

対象となるハザードとその基準	地震	震度6弱以上
	風水害	風水害による「避難勧告」または「避難指示(緊急)」の発令
計画の局面	地震	地震発生直後から広域避難所への到達まで
	風水害	「避難勧告」または「避難指示(緊急)」の発令時から広域避難所への到達まで
計画の目的	<ul style="list-style-type: none"><li>① 笠縫学区における地震・風水害の被害想定を周知する。</li><li>② 地震発生時から広域避難所へ避難するまでの学区の役割と流れを把握する。</li><li>③ 町内会ごとの防災に関する取り組みと避難の体制を把握する。</li></ul>	

# 笠縫学区で想定される被害

## (1)地震

草津市では、近年特に大きな地震はないものの、過去の地震活動履歴から鑑みれば、今後大きな地震災害が発生する可能性があります(図2参照)。草津市周辺には、幾つもの活断層が存在しており、どの活断層が活動しても地震災害をもたらす可能性があります。

草津市にとって特に考慮すべき地震は、「琵琶湖西岸断層帯による地震」と、「南海トラフ巨大地震」です。

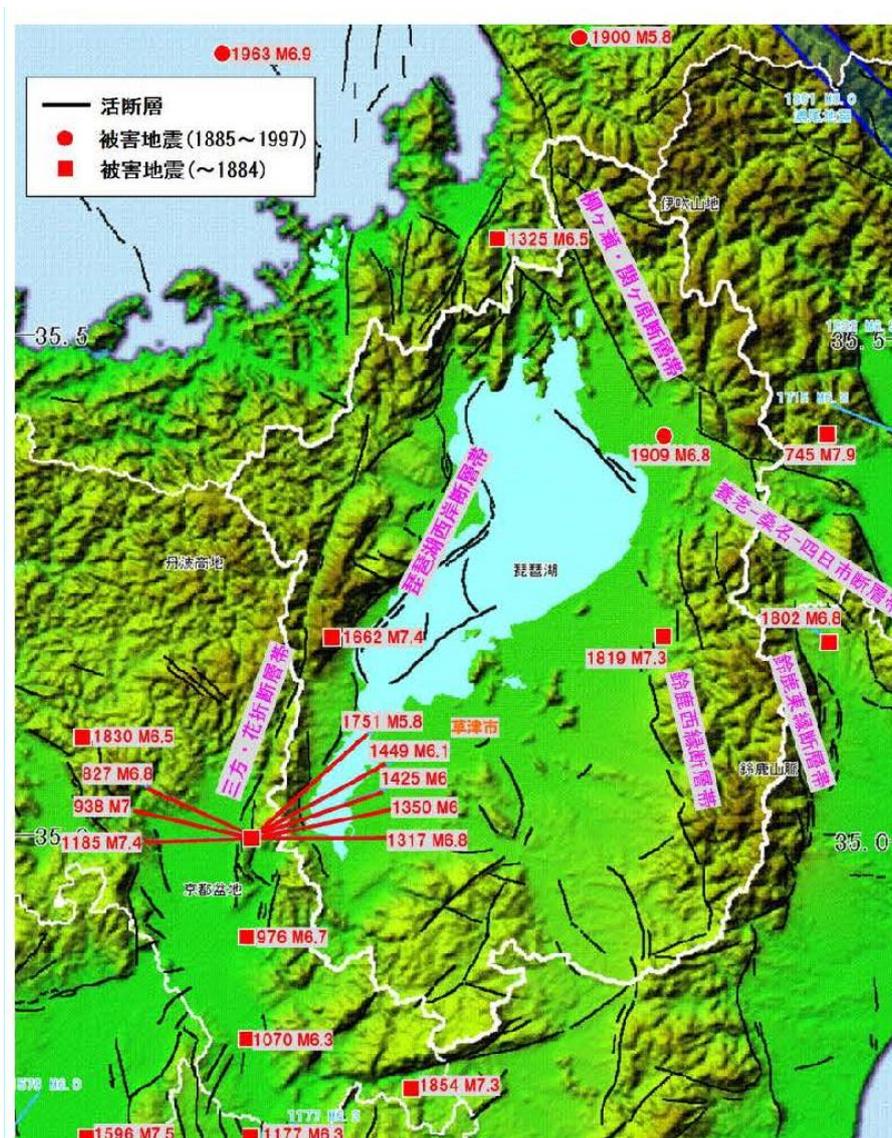


図2 滋賀県の地震活動履歴  
(草津市防災アセスメント調査より抜粋)

# 笠縫学区で想定される被害

## ■ 琵琶湖西岸断層帯の被害想定

琵琶湖西岸断層帯による地震が発生すると、笠縫学区においても最大震度7(図3参照)をもたらすと予測され、滋賀県内で想定される地震の中で草津市に最も大きな被害をもたらす可能性があります。

「草津市防災アセスメント調査」※(平成27年(2015年)1月時点)によると、琵琶湖西岸断層帯の直下型地震が発生した場合は、揺れ、火災などの被害が生じ、湖岸部を中心に液状化の危険性も高いです(図4参照)。笠縫学区では最大で死者約35.7人、重傷者約56.7人、負傷者約263.7人、避難者約2,207.1人に及ぶ(図5参照)と見込まれています。帰宅困難者も市内で多く発生することも想定されています。建物被害では、全壊棟数約591.7棟、半壊約960.6棟が発生(図6参照)することが見込まれています。

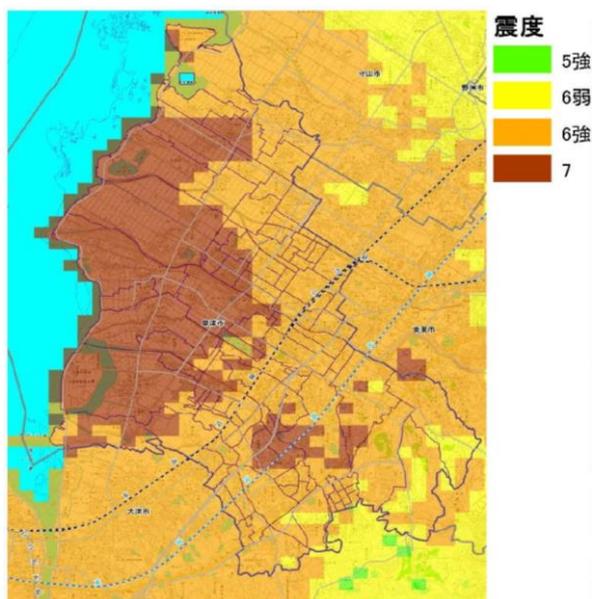


図3 琵琶湖西岸断層帯における最大震度分布図  
(草津市防災アセスメント調査より抜粋)

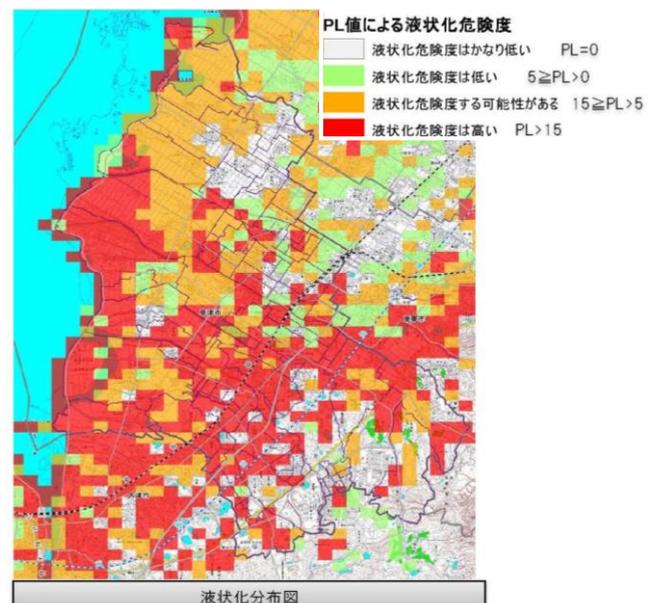
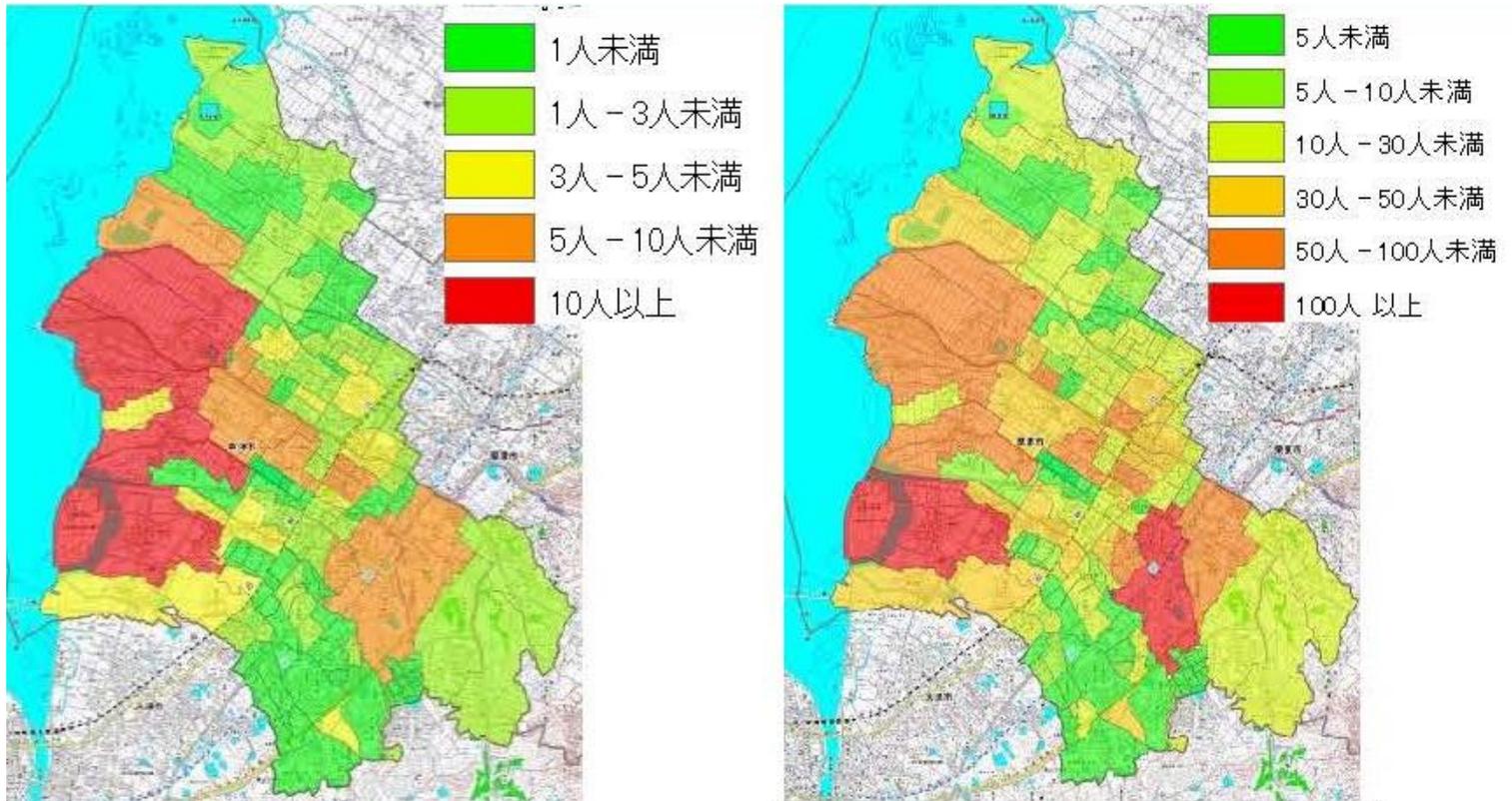


図4 琵琶湖西岸断層帯における液状化分布図  
(草津市防災アセスメント調査より抜粋)

※「草津市防災アセスメント調査」では、東日本大震災等の最新の地震被害状況を踏まえた内閣府中央防災会議による「南海トラフ巨大地震の地震被害想定手法」に基づき、被害想定シミュレーション結果が算出されている。

# 笠縫学区で想定される被害



(地区別の死者発生予測)

(地区別の重傷者発生予測)

図5 琵琶湖西岸断層帯地震における地区別の死者・重傷者発生予測分布図

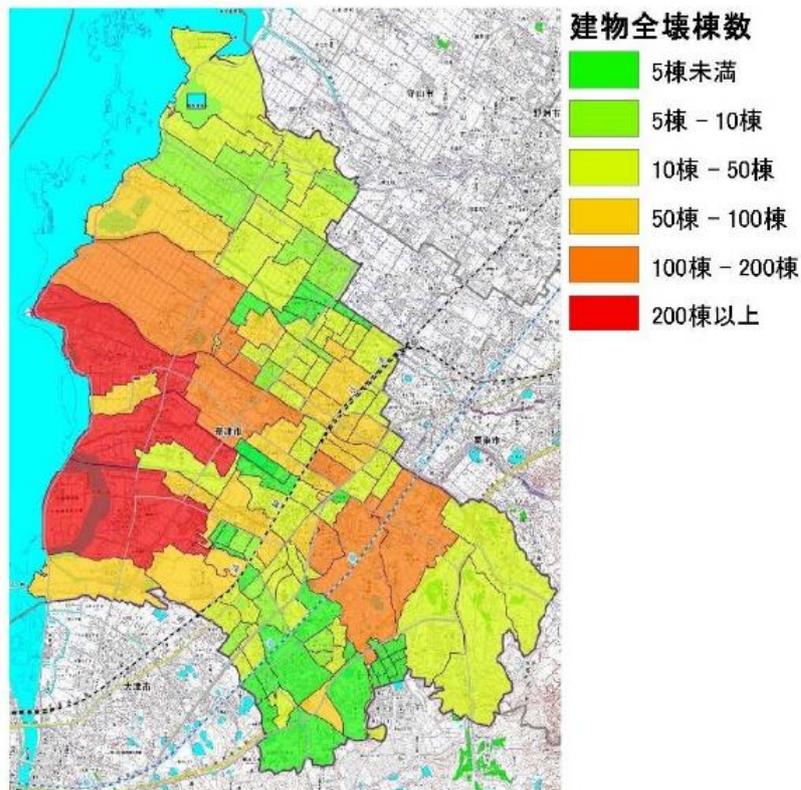


図6 琵琶湖西岸断層帯における地域別の建物全壊棟数予測分布図

# 笠縫学区で想定される被害

## ■ 南海トラフ巨大地震の被害想定

南海トラフ巨大地震が発生すると、最大震度6強(図7参照)をもたらすとともに、全国に被害をもたらす極めて社会的影響の大きい地震のため、他地域からの受援不可能であり、県内防災力のみで対応すべき状況に陥る可能性があります。琵琶湖西岸断層帯と同様に、湖岸部を中心に液状化の被害も懸念されます(図8参照)。南海トラフ巨大地震が発生した場合は、笠縫学区では最大で死者約3.3人(図9参照)、負傷者約81.1人、建物全壊棟数約53.9棟(図10参照)の被害が発生すると予測されています。

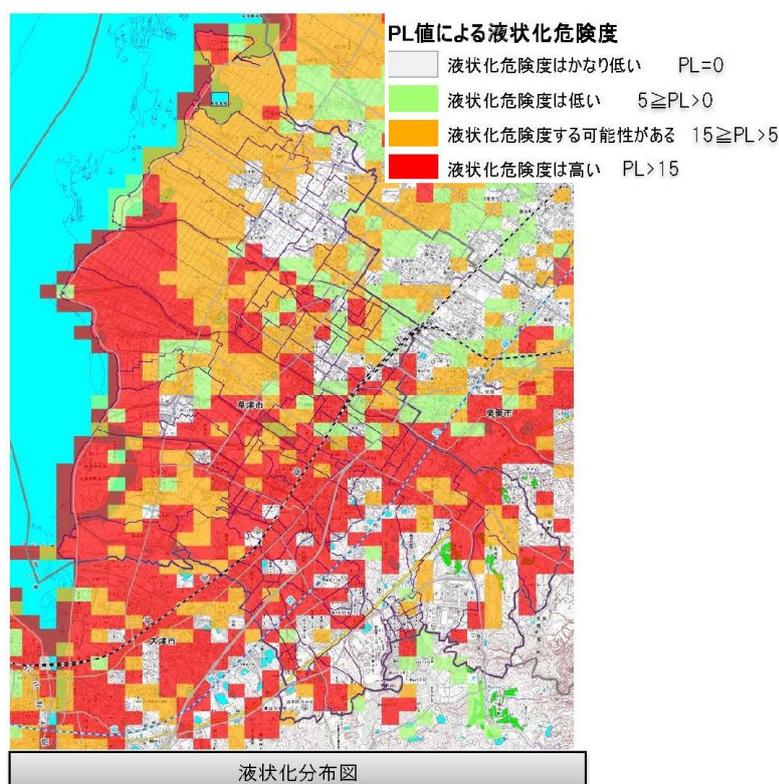
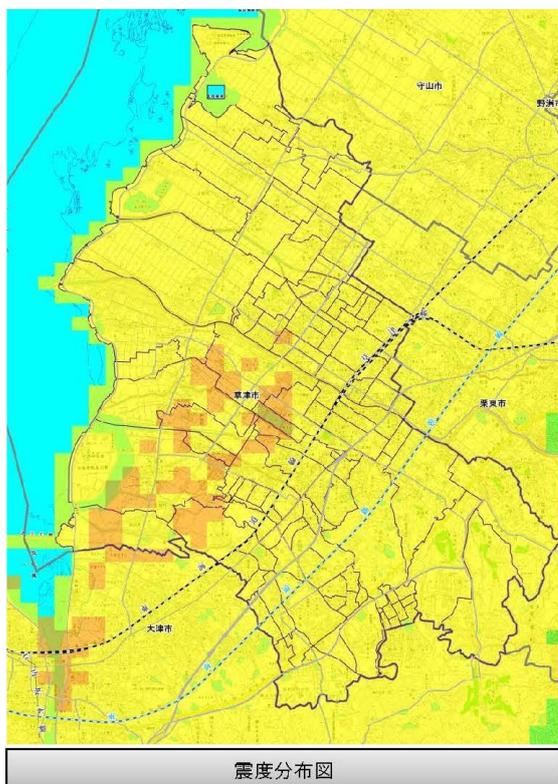
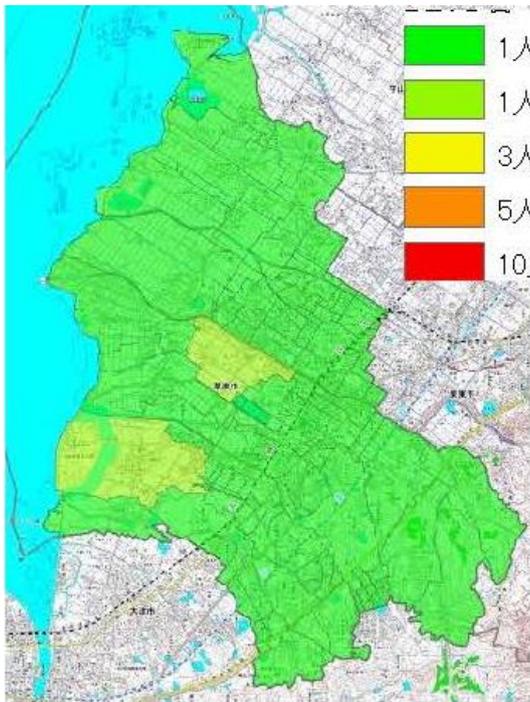


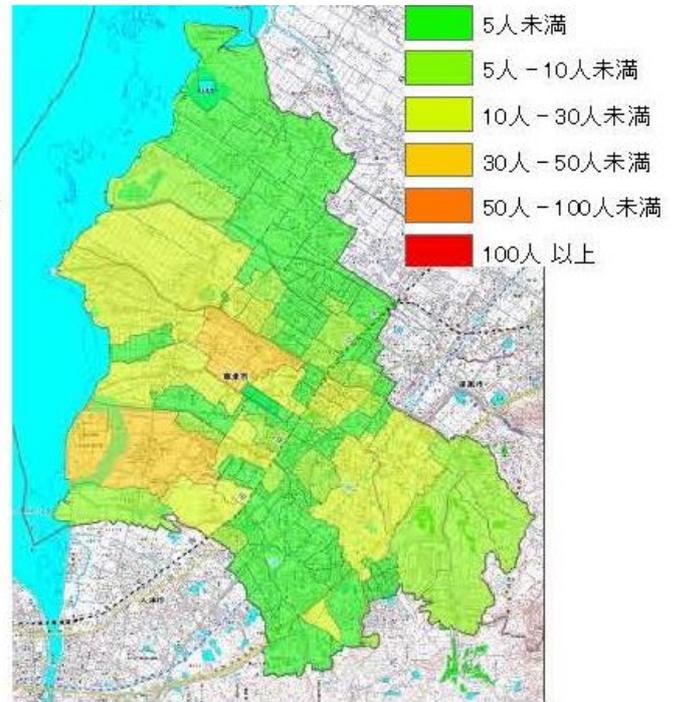
図7 南海トラフ巨大地震における最大震度分布図  
(草津市防災アセスメント調査より抜粋)

図8 南海トラフ巨大地震における液状化分布図  
(草津市防災アセスメント調査より抜粋)

# 笠縫学区で想定される被害



(地区別の死者発生予測)



(地区別の重傷者発生予測)

図9 南海トラフ巨大地震における地区別の死者・重傷者発生予測分布図

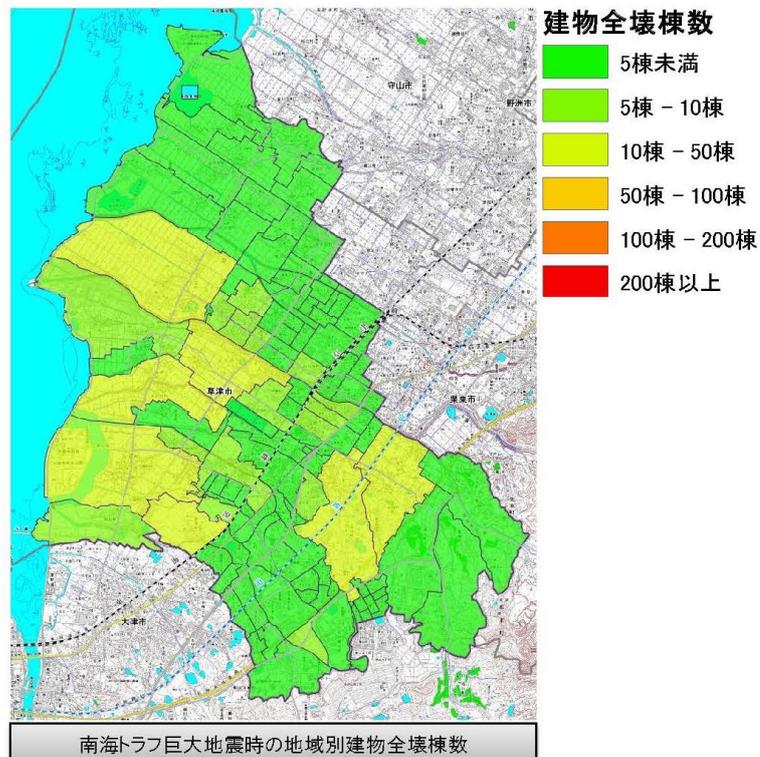


図10 南海トラフ巨大地震における地域別の建物全壊棟数予測分布図

# 笠縫学区で想定される被害

## (2) 風水害

草津市笠縫学区において3m以上の浸水が発生する地域は限定的です。しかしながら、集中豪雨や長雨等が発生した場合、琵琶湖や河川本川の水位が上昇することにより、側溝やマンホールから氾濫する危険性が高いです(図11参照)。また、笠縫学区ではため池や用水路が比較的多く存在しており、湖岸地域を中心に広範囲で氾濫する危険性が極めて高く、長期にわたって水が引かない可能性も高いです。

地球温暖化等の影響で草津市における年間降水量や1時間雨量は増加傾向にあります。これまでに経験のないような豪雨災害が全国各地で毎年発生しています。「想定外」ととらわれないよう、風水害に対応するための体制づくりが求められます。



# 笠縫学区で想定される被害

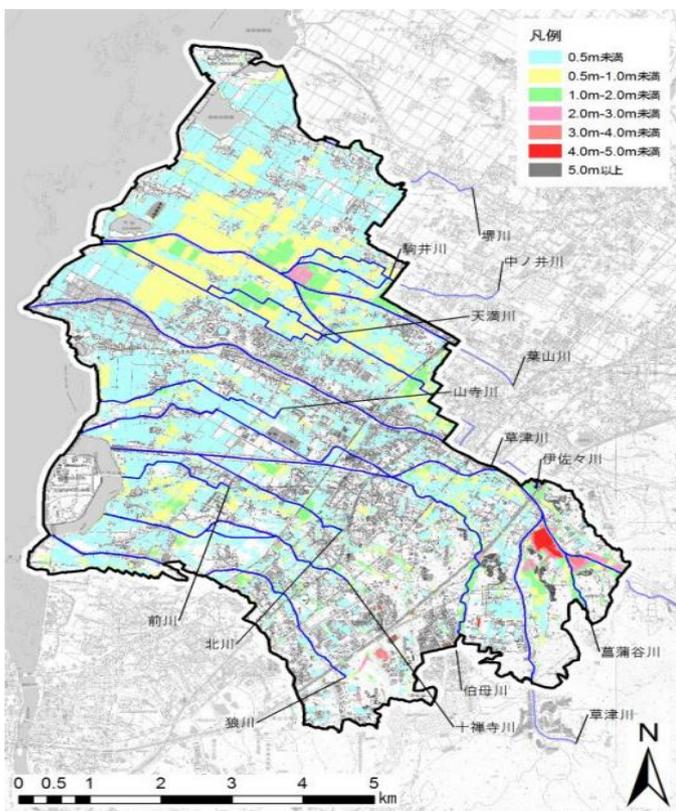
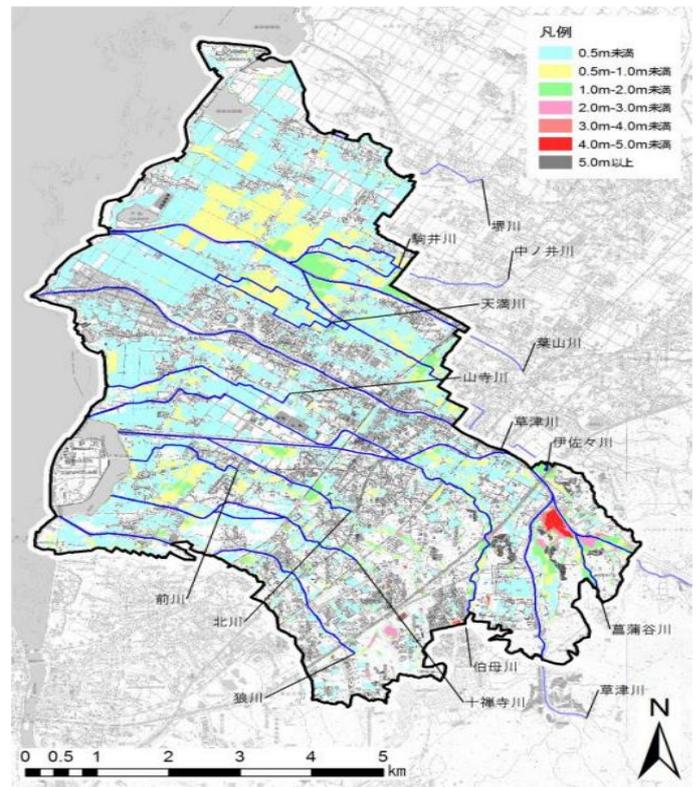
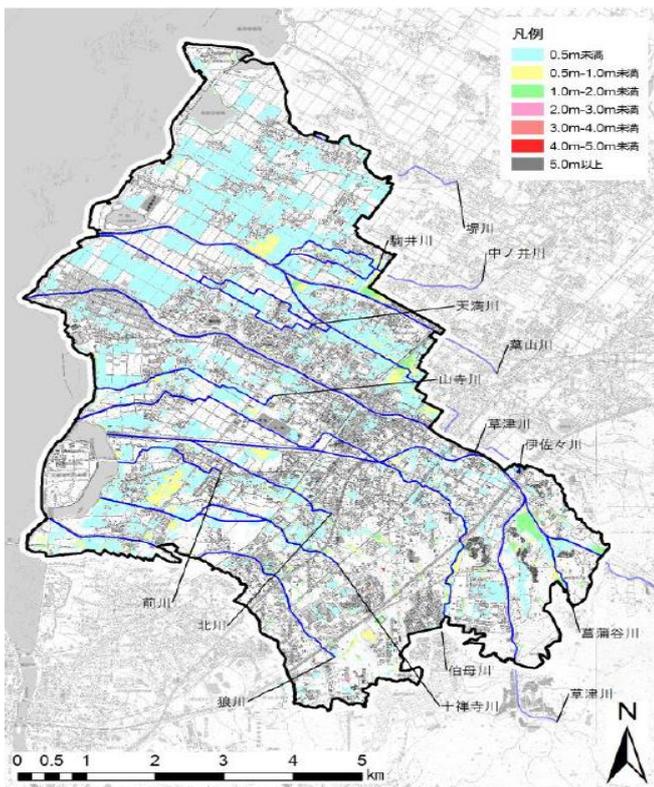


図11 風水害発生時の最大浸水深発生確率図

# 笠縫学区で想定される被害

表1 笠縫学区における地区別の基礎情報及び被害想定

		野村	上笠	下笠	学区全体
面積		0.33km <sup>2</sup>	0.98km <sup>2</sup>	3.44km <sup>2</sup>	4.75km <sup>2</sup>
人口(R2.1.31現在)		2,181人	5,392人	3,533人	11,106人
性別	男	1,089人	2,621人	1,709人	5,419人
	女	1,092人	2,771人	1,824人	5,687人
世帯(R2.1.31現在)		994世帯	2,407世帯	1,287世帯	4,688世帯
琵琶湖西岸 断層帯地震 被害想定※	死者数	4.4人	21.2人	10.1人	35.7人
	重傷者数	6.9人	33.7人	16.1人	56.7人
	負傷者数	38.1人	153.3人	72.3人	263.7人
	避難者数	264.7人	1,296.0人	646.4人	2,207.1人
	全壊棟数	72.2棟	167.3棟	352.2棟	591.7棟
	半壊棟数	152.0棟	258.0棟	550.6棟	960.6棟
南海トラフ 巨大地震 被害想定※	死者数	0.6人	1.7人	1.0人	3.3人
	重傷者数	0.9人	2.7人	1.5人	5.1人
	負傷者数	13.1人	43.8人	24.2人	81.1人
	避難者数	49.3人	175.7人	104.6人	329.6人
	全壊棟数	8.9棟	16.0棟	29.0棟	53.9棟
	半壊棟数	68.2棟	126.7棟	227.8棟	422.7棟

※草津市防災アセスメント調査(H27.1)より  
ただし、人口・世帯数はR2.1.31現在です。

# 笠縫学区のまち点検

令和元年(2019年)9月28日に笠縫学区にお住まいの方々とまち点検と意見交換を行い、災害時の危険箇所や心配な点、想定される被害や防災資源を発掘しました。

次のページでは、笠縫学区においてまち点検で明らかとなった災害時の危険箇所や心配な点を示しています。災害時の危険箇所や心配な点は、できるだけ減らしていくような取り組みを学区全体で進めていく必要があります。

## 笠縫学区まち点検・意見交換の様子



# 笠縫学区のまち点検

## －災害時の危険な箇所・心配な点－

### 地震発生時の危険箇所・心配な点

- 道路が狭くて、避難が困難な箇所がある。
- 一次集合場所までの避難ルートが狭く、消防車が入れない箇所がある。
- 住宅密集地では道路幅が狭く、ブロック塀の倒壊による危険性があり避難ルートの確保が困難である。
- 火災が発生した場合は、消火困難な場所がある。
- 電柱やブロック塀、家屋の倒壊が心配である。
- 水の溜まりやすいエリアでは、地盤が緩く液状化の心配がある。

### 風水害発生時の危険箇所・心配な点

- 水路に柵がないので水路が氾濫した際に、避難ルートの危険性が伴う。
- ハザードマップを確認して浸水想定と避難場所を確認する必要がある。

### 災害問わず共通した危険箇所・心配な点

- 時間帯により、高齢者のみで対応を考えなくてはならない。

# 笠縫学区の災害対応体制

災害発生時には住民と行政とが連携して対応にあたる  
ことが求められます。

次のページからは、地震発生時から広域避難所開設  
までの流れや役割について示しています。また、水害時の  
行政からの情報や避難する際の目安を掲載しています。

ここで示している体制を基に防災訓練などで検証しな  
がら、更新していくことで、災害時に実効力のある体制づく  
りを図っていきます。



# 笠縫学区の災害対応体制

## [地震]

### ■ 地震発生時から広域避難所開設までの流れと役割

発災直後

発災当日～

～3日間

市民  
町内会

#### ■ 家庭では

- ・火の始末を素早く
- ・脱出口を確保する
- ・家族の安否確認
- ・けがの有無の確認
- ・自宅等被災状況調査
- ・逃げる準備
- ・非常持ち出し袋の準備
- ・隣近所への声かけ
- ・ラジオなどで情報収集
- ・家屋の倒壊や火災の延焼があれば避難
- ・避難の場合はブレーカーを切る

#### ■ 一次集合場所へ

- ・町内会の一次集合場所に集合
- ・町内会の被災状況の確認
- ・人員点呼、安否確認、要配慮者の避難支援
- ・救助、初期消火
- ・救助支援要請(市・消防・警察に連絡)

#### ■ 広域避難所へ

- ・避難が必要な人は町内会でまとまって広域避難所へ移動
- ・避難が必要でない者(自宅等健在な者)は帰宅
- ・自治会で避難者の人数把握
- ・帰宅者についても食糧・水の補給状況等を掌握
- ・町内会館への自主避難など食糧・水等救援物資が必要な場合は、必要量を掌握し、町内会ごと代表者が、最寄りの広域避難所へ行き、市職員に被災状況を報告し必要物資を要請する
- ・行方不明者や要配慮者の安否確認、見つからない行方不明者や要配慮者の確認、市への応援要請

避難所  
等施設  
管理者

#### ■ 管理施設への出勤

- ・震度5弱以上:自主出勤
- ・震度5弱未満:市災害対策本部より連絡
- ・風水害の場合:市災害対策本部より連絡

#### ■ 施設の状況確認

施設の被災状況、安全点検、避難者の状況を確認し、市の施設担当所属に電話報告(電話が使えない場合、小学校にある防災無線機を活用)

#### ■ 門扉の開錠

- ・施設の入り口のみ開錠(体育館等の収容施設は安全点検後に開錠)
- ・この時点でグラウンドについては開放状態にあることから、避難住民の受け入れは可能な状態となる

#### ■ 状況を報告

施設確認へ赴いた市職員へ、被災状況、避難者の状況等の報告及び施設管理者として本来業務の担当者への報告

#### ■ 施設の開放

使って良い部屋、いけない部屋の仕分け、使用上の注意事項等、市や避難者と調整

#### ■ 職員と通学児童等の安否確認

平常時の施設利用者の安否を確認する

#### ■ 避難所運営への協力

自らの施設や利用者の安全管理に加え、避難所運営に協力する

※ 草津市防災ハンドブックより抜粋、一部切り取り、一部修正。

# 笠縫学区の災害対応体制

## [風水害]

### ■ 草津市が発令する避難情報

避難指示(緊急)	<ul style="list-style-type: none"><li>・未だ避難していない対象住民は、<b>直ちに避難行動</b>に移る</li><li>・そのいとまがない場合は、<b>生命を守る最低限の行動</b></li></ul>
避難勧告 【警戒レベル4】	<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>通常の避難行動ができる者</b>は、計画された避難所等への避難行動を開始</li></ul>
避難準備・ 高齢者等避難開始 【警戒レベル3】	<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>高齢者等の要配慮者(避難に時間を要する者)</b>は、計画された避難行動を開始</li><li>・避難支援者は、支援行動を開始</li><li>・上記以外の者は…避難準備を開始</li></ul>

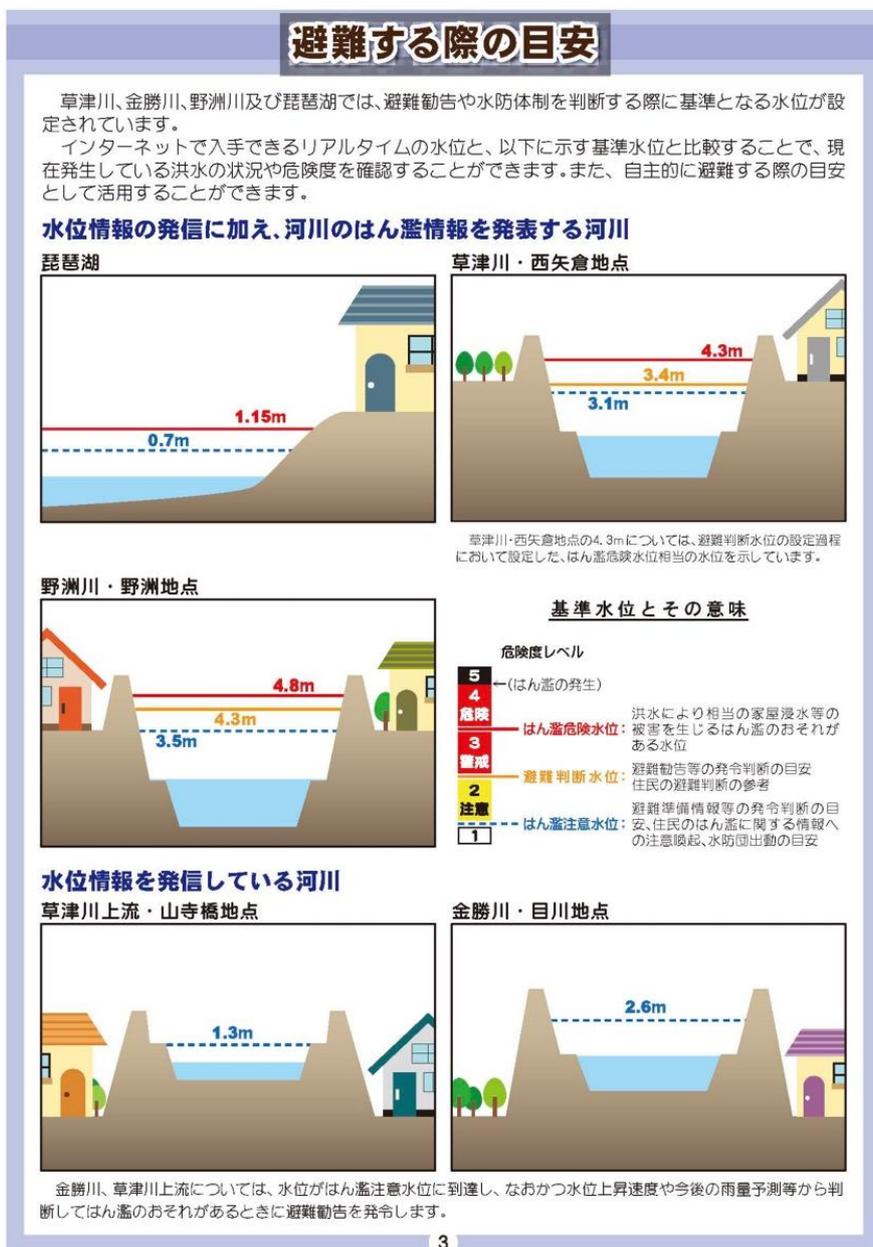
### ■ 指定河川洪水予報

河川の増水や氾濫などに対する水防活動の判断や住民の避難行動の参考となるように、気象庁は国土交通省または都道府県の機関と共同して、あらかじめ指定した河川について、区間を決めて水位または流量を示した洪水の予報

種類	発表基準	住民に求める行動の段階
(例)草津川氾濫発生情報	氾濫の発生(レベル5) (氾濫水の予報※)	氾濫水への警戒を求める段階 【警戒レベル5相当】
(例)草津川氾濫危険情報	氾濫危険水位(レベル4)に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応 を求める段階【警戒レベル4相当】
(例)草津川氾濫警戒情報	一定時間後に氾濫危険水位(レベル4)に到達が見込まれる場合、 あるいは避難判断水位(レベル3)に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する 警戒を求める段階 【警戒レベル3相当】
(例)草津川氾濫注意情報	氾濫注意水位(レベル2)に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める 段階 【警戒レベル2相当】

# 笠縫学区の災害対応体制

## ■ 水害発生想定時における避難する際の目安となる水位



「西矢倉観測所(滋賀県草津市野路町地先)」の河川水位は以下のサイトから確認が可能です。

<https://www.river.go.jp/kwabou/ipSuiiKobetu.do?obsrvId=0640100400097&gamenId=01-1002&stgGrpKind=crsSect&fldCtlParty=no&fvrt=yes>



「上鈎池橋観測所(滋賀県栗東市安養寺町)」の河川水位は以下のサイトから確認が可能です。

<https://www.river.go.jp/kwabou/ipSuiiKobetu.do?obsrvId=0640100400008&gamenId=01-1002&stgGrpKind=crsSect&fldCtlParty=no&fvrt=yes>



※ 草津市洪水・内水ハザードマップ(記事面)より抜粋

# MEMO

# 町内会ごとの避難体制

笠縫学区には24の町内会があり、防災の取り組みや避難の体制は、町内会ごとにそれぞれ異なります。

笠縫学区の全ての町内会に対して、①町内会の目標②町内会の特徴③町内会で取り組んでいる防災対策④町内会の特色(強み、優れている)⑤町内会の課題(不安、問題がある)を明らかにしました。その上で、各町内会ごとの「一次集合場所」「町内の避難所」「広域避難所」の一覧及びそれらの場所と、震災時・水害時の避難経路を示しています。

町内会ごとの防災の取り組みや避難の体制を共有し、できるところから課題を解決することで、災害発生時に学区全体でより効果的な対応ができるように目指しましょう。

## 一次集合場所とは

災害が発生してから各町内会で集まる場所。

## 広域避難所とは

被災者が一定期間の仮住まいをする施設として想定しており、多くの被災者を受け入れることのできる施設。災害時には、必要な物資の提供等を受けることができる。

記入日 2020/02/18

## 上笠町第一

■ 水害時避難ルート 青色

■ 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

■ 広域避難所

### 【一次集合場所】

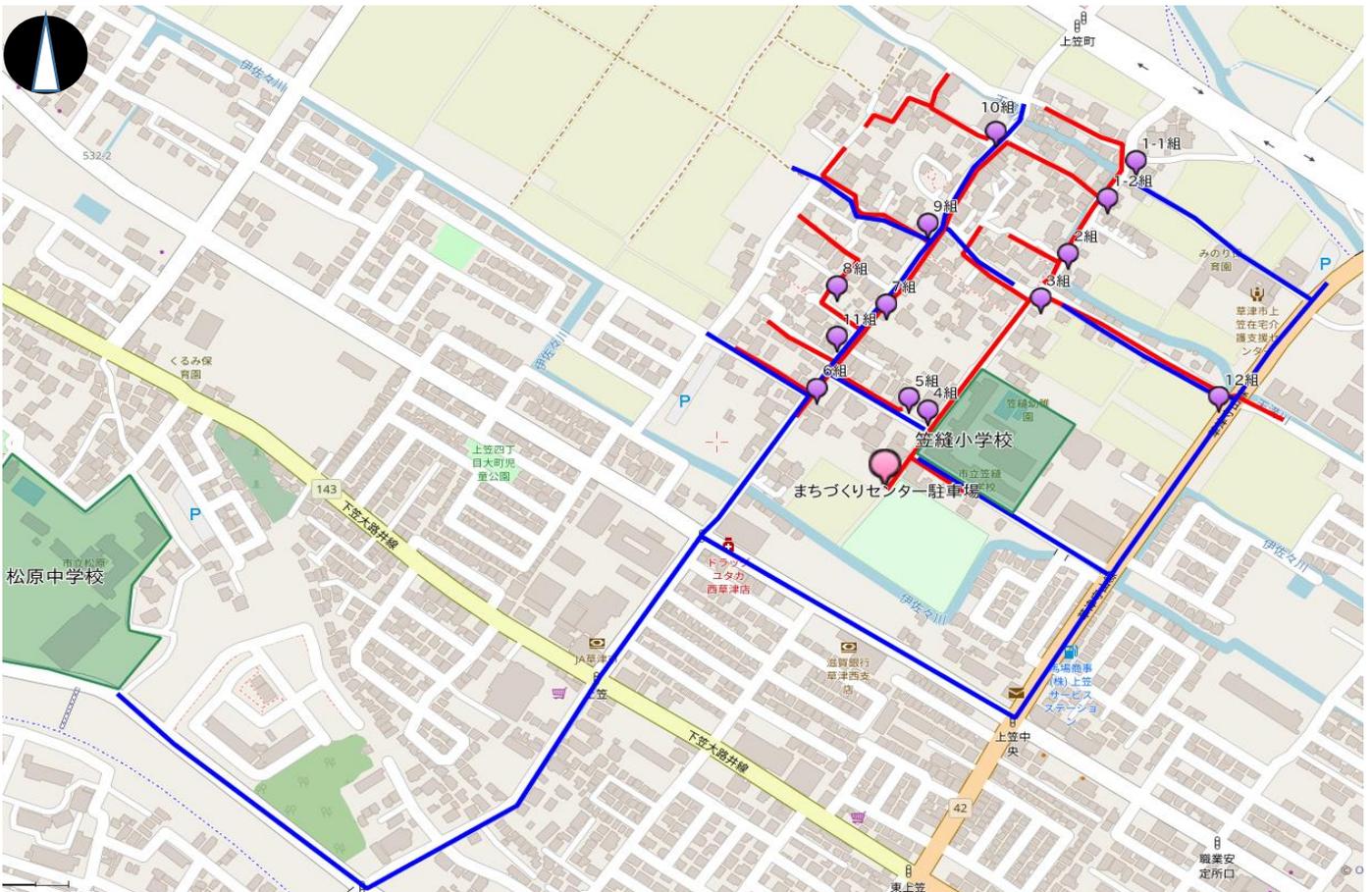
組別一次集合場所

### 【町内の避難所】

まちづくりセンター駐車場

### 【広域避難所】

水害時:松原中学校  
震災時:笠縫小学校



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

会員相互及び会内外の諸団体との協力、協調のもとに、会員の教養を高め、福祉を増進し、地域生活環境の整備や防災などに努め、又は行政との協議、協力を進めつつ、住民のための町づくりを行うことを目的とする

## 町内会の特徴

- JR草津駅から2Km公共交通(バス)も比較的便利である
- 笠縫学区の中心にあり、笠縫小学校、まちづくりセンター、幼稚園、農場、スーパーマーケット等がある
- 高齢化が進みつつあるが、敷地内に2~3世代が住んでいる家族もある
- 旧住民と新規入居者の混在する町内、共同住宅もいくつかある

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- 自衛消防隊の定期的訓練(1回/月)
- 町内全域対象に避難訓練
- 年末の夜警

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- 昔からの住民が殆どを占めており、繋がりが強い
- 神社や仏閣の行事が盛んである
- ゴミ集積場等、町内のマナーが比較的良い

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- 高齢化と相成って、町役のなり手が少ない
- 里道が多く、災害時の緊急車両が入れない
- 上記同様、里道に面してブロック塀が多く震災時の倒壊が心配である

記入日 2020/02/18

## 上笠町第二

■ 水害時避難ルート 青色

■ 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

■ 広域避難所

### 【一次集合場所】

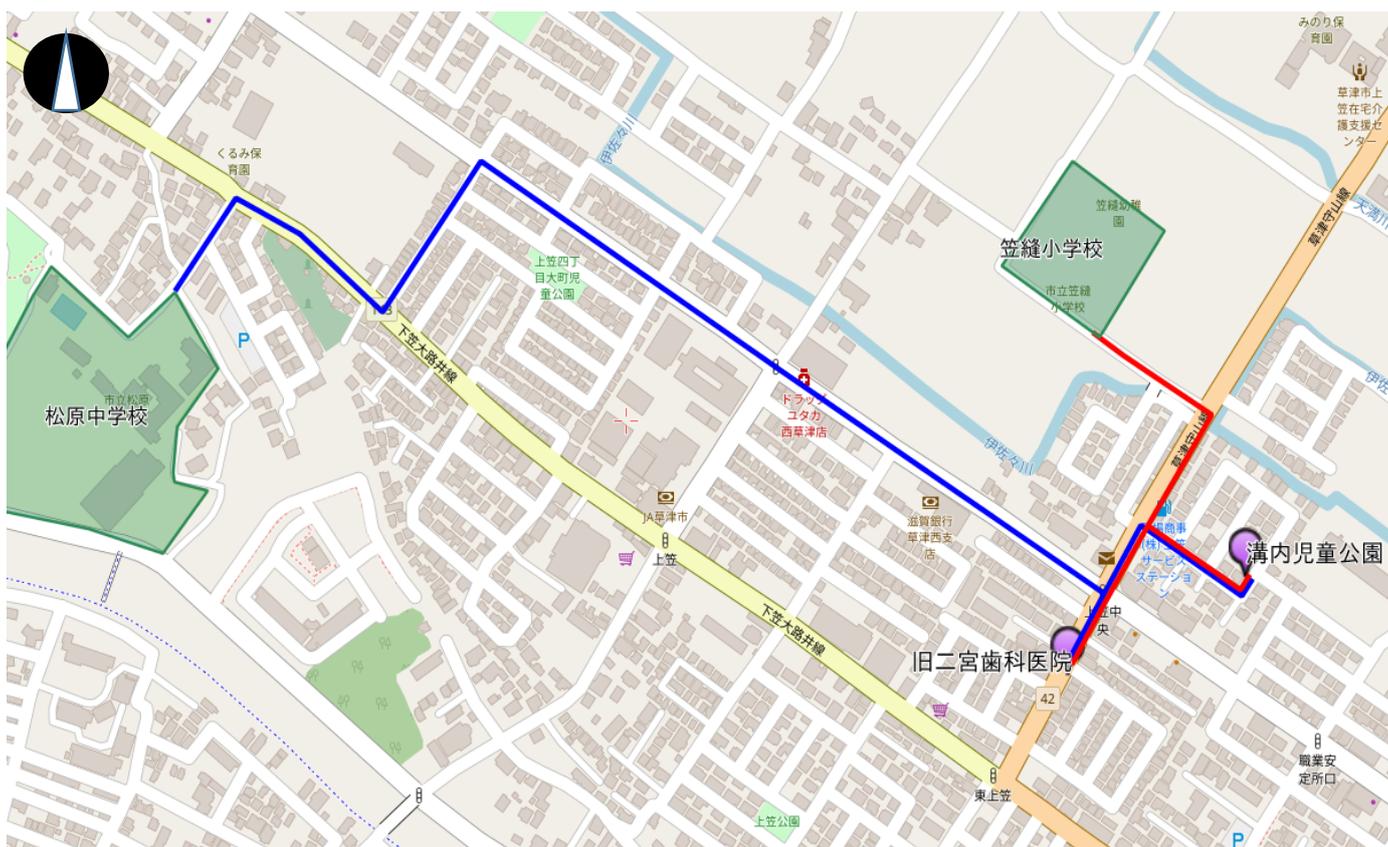
- ①旧二宮歯科医院
- ②溝内児童公園

### 【町内の避難所】

なし(適切な施設がない、および  
笠縫小学校が近いため)

### 【広域避難所】

水害時:松原中学校  
震災時:笠縫小学校



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

1. 町内住民の親睦と相互扶助による住みよい地域づくり
2. 地域環境の美化や防災活動による安全な地域づくり
3. 子ども育成や高齢者活動団体との連携による福祉増進

## 町内会の特徴

1. 当町内は昭和40年代から宅地開発が進み、180世帯の中で70歳以上が120名、小学生15人の少子高齢化が著しい(高齢者のみの世帯が多い)
2. 微増ではあるが町外からの中堅層の転入者もある)

## 町内会で取り組んでいる防災対策

1. 避難、防災訓練(年1回)
2. 消防訓練(年1回)
3. 消火ホース(町内5ヶ所)の点検(年2回)
4. 組長宅への町内消火器の設置(11個)

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

1. 防災活動への定例的な取組みの実施
2. 町内会役員、高齢者のボランティア、子ども会役員で構成する自衛消防組織の構築
3. 広域避難所である笠縫小学校までの距離が近い

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

1. 町内がびわこ通りで分断する形となっている
2. 高齢者のみの世帯が多く水害時の広域避難所である松原中学校までの避難支援が不安

記入日 2020/01/29

## 上笠町第三

— 水害時避難ルート 青色

— 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

■ 広域避難所

【一次集合場所】

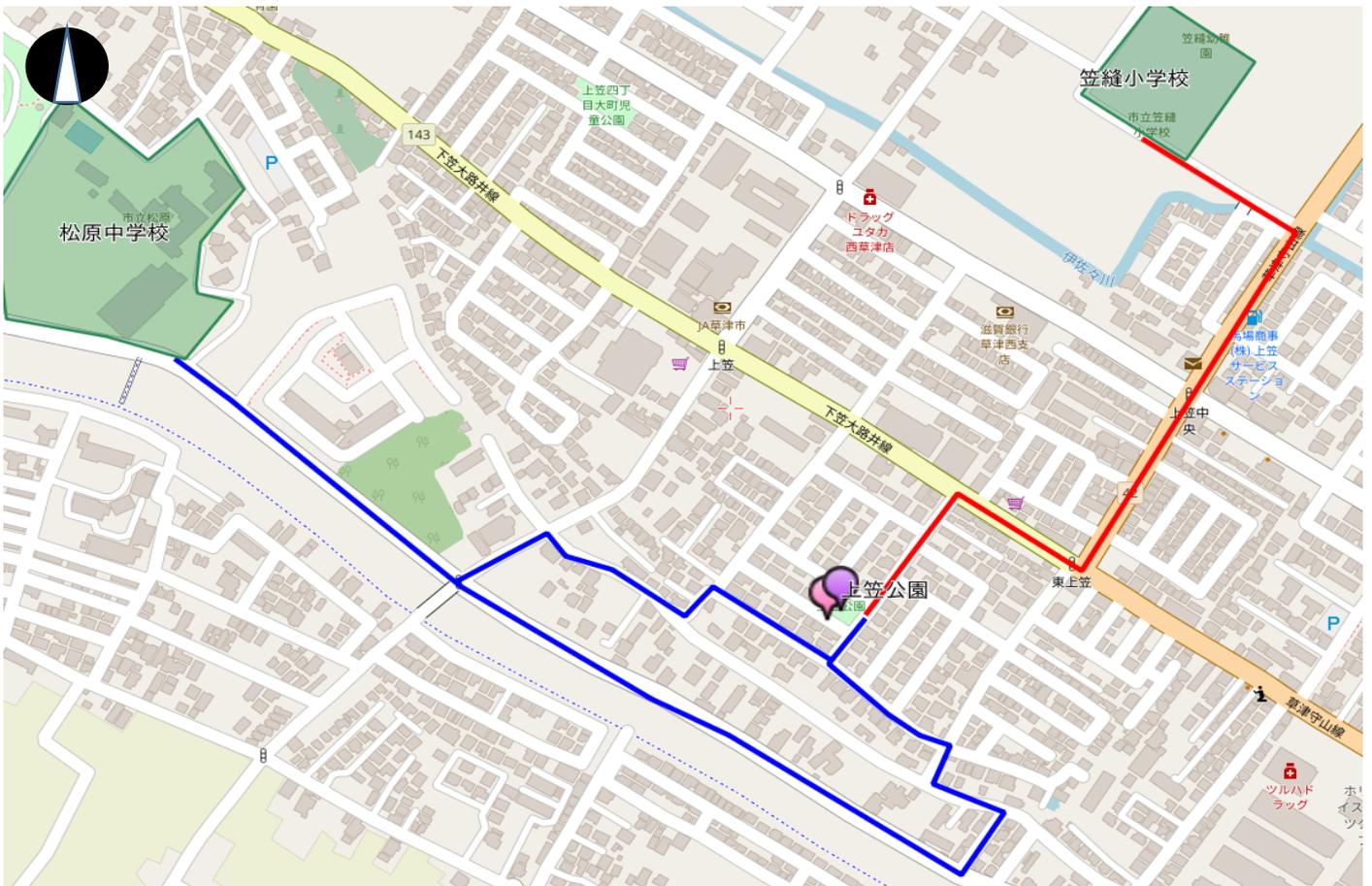
上笠公園

【町内の避難所】

上笠公園

【広域避難所】

水害時:松原中学校  
震災時:笠縫小学校



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

住民の福祉および相互の親睦を図り、明るい住みよい町づくりを達成すること

## 町内会の特徴

- ・上笠町第三町内会は旧草津川の北東の堤防沿いに位置し、現在は505戸の世帯数である
- ・高齢化が進み70歳以上が361人(内災害時要援護者50人)となっている
- ・町内人口の37%が高齢者である

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- ・湖南広域消防局西消防署にて防火防災訓練(消火・震災訓練・煙体験)
- ・町内公園にて西消防署員の指導による防災避難訓練(消火・救出救護・機器取扱訓練)
- ・町内全域の消火栓器具、消火器の点検

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- ・防災器具の充実(発電機1台、LED投光器4台、チェーンソー1台、担架1台、簡易担架セット3セット、テント6張り、災害救助用工具1セット、マンホールトイレ2セット、リヤカー2台、車いす1台)
- ・地域性・・・町内に河川がなく、旧草津川堤防沿いのため、水害見込みも町内のごく一部に限られている

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

高齢化世帯の増加に伴い、災害時における協力体制構築が難しくなりつつある

記入日 2020/01/29

## 上笠町第四

— 水害時避難ルート 青色

— 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

■ 広域避難所

### 【一次集合場所】

大町児童公園



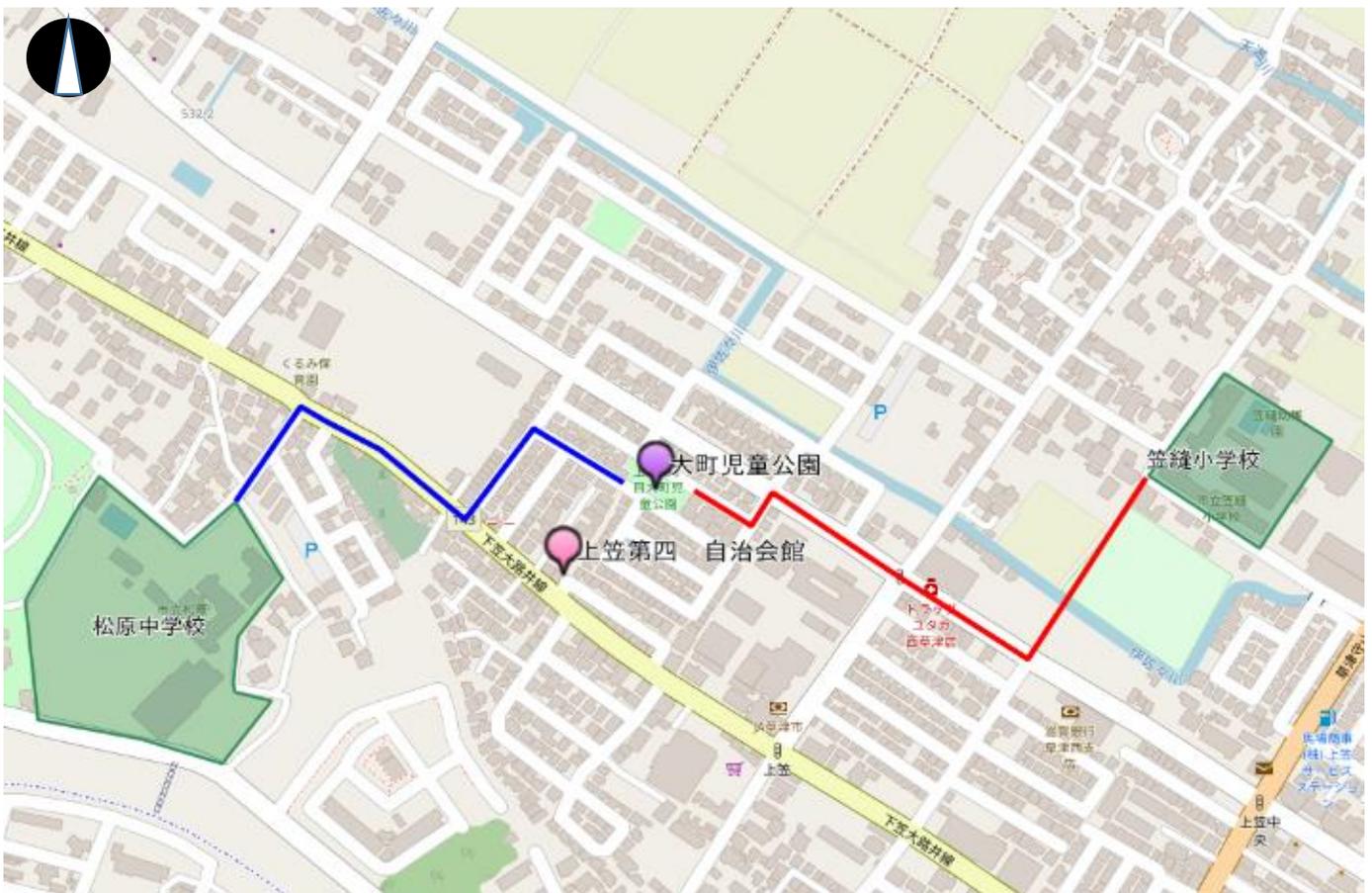
### 【町内の避難所】

上笠第四 自治会館



### 【広域避難所】

水害時: 松原中学校  
震災時: 笠縫小学校



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

町内自治の円滑な運営および住民の親睦と相互扶助により、地域社会の発展と福祉の増進、防災、防犯に努め、明るい住みよい町づくりを達成する。

## 町内会の特徴

少子高齢化が著しく進み、高齢者のみの世帯も多い。(70歳以上の方が380余名)

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- ・防災隊員対象の図上訓練、救急救命講座(西消防署の指導による)
- ・防災避難訓練(年2回)
- ・自治会館消防設備の法定点検、自主点検(年各2回)
- ・町内全域の消火栓器具、消火器の点検
- ・年末夜間パトロール

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- ・防災活動への定例的な取り組みの実施
- ・自主防災隊の組織構築

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- ・水害時、町内の約7割が浸水の恐れ(一次集合場所も浸水が想定されている)
- ・町内を南北に通る水路が3本あり、伊佐々川からの逆流が懸念される
- ・防災スピーカーの音が屋外にいても聞きとりづらい

記入日 2020/02/18

## 上笠町第五

— 水害時避難ルート 青色

— 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

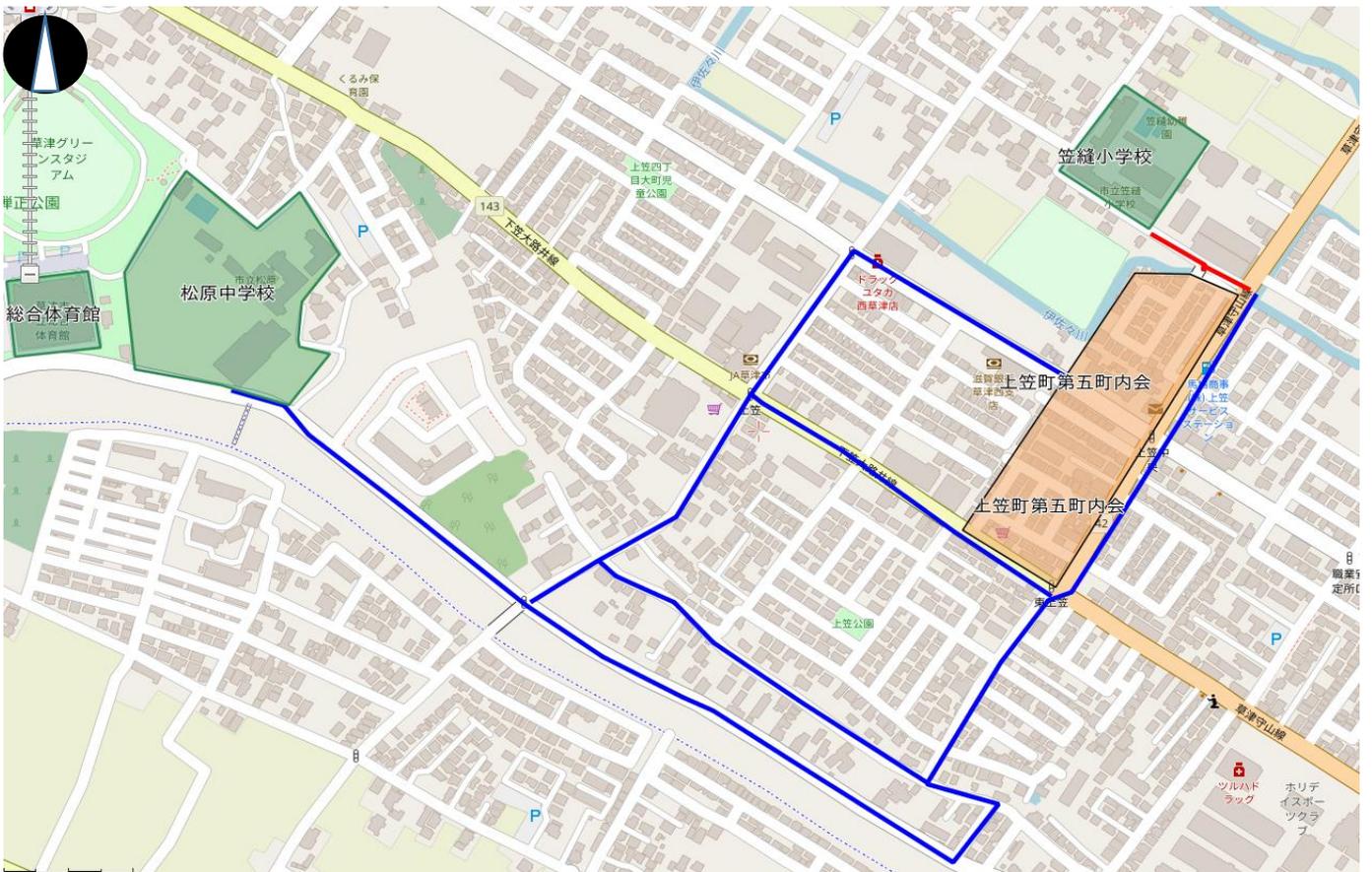
■ 広域避難所

【一次集合場所】

【町内の避難所】

【広域避難所】

特記事項 参照



### 特記事項

震災時は笠縫小学校に避難(震度5強以上のとき)  
水害時は松原中学校に避難

## 町内会の目標(方針)

誰もが、安心・安全に暮らせる災害に強いまち

## 町内会の特徴

- ・住民が高齢化しており、古い住宅街で人通りも少ない
- ・道幅が狭く住宅が密集している地域がある
- ・戸数は150戸で、そのうち50戸はマンション・アパートである

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- ・各組長に大型消火器の貸与
- ・各家庭に小型消火器の貸与
- ・毎年、防災防火訓練の実施  
年度毎に異なるが、消火・放水・救急・地震体験訓練等を実施
- ・消火栓器具ボックス内の点検・保全

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

避難所(小学校)に近い

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- ・古い住宅街で、道幅も狭く、火災が発生すれば延焼の可能性  
がある
- ・避難所が近いため、勝手に避難し、安否確認が難しい

記入日 2020/01/29

## 上笠町第六

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

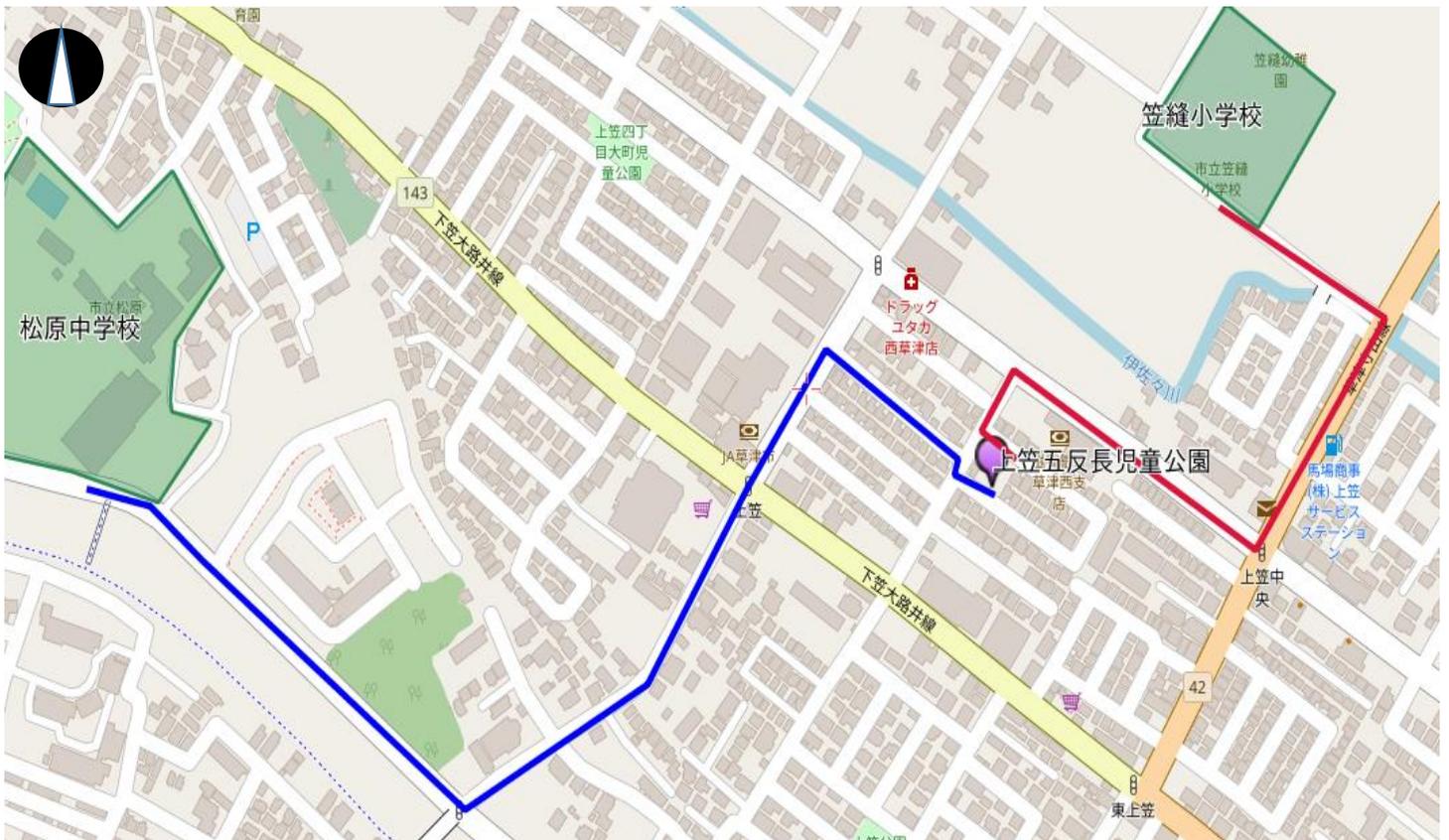
### 【一次集合場所】

上笠五反長児童公園



### 【広域避難所】

水害時:松原中学校  
震災時:笠縫小学校



### 特記事項

災害時要援護者登録35名  
うち搬送もしくは付き添い要12名

## 町内会の目標(方針)

会員の親睦と相互扶助による、地域社会の発展および福祉の増進を目的とする(町内会会則第1条・目的)

## 町内会の特徴

- ・1970年代に働き盛りの年齢で町内に居を構え、年を重ね、子供は独立して転出、別居というパターンの世帯が圧倒的に多い、典型的な高齢地域
- ・小学生以下の子供は十数人と激減

## 町内会で取り組んでいる防災対策

本来であれば阪神・淡路クラスの大震災、近年多発している風水害等が、草津を襲った時、救援隊が到着するまでの数日間、町内会としてどの様に持ちこたえるのか・・・そのための対策を構築しておくべきであろうが、通常の町内会長業務と併行してはとても無理草津市、まちづくり協議会等の的確な指導とバックアップがなければ実現しない

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

物事に真面目に取り組む方が多いと感じる

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- ・災害の少ない草津に長年住んでいるせいか、災害に対する危機感希薄で、防災意識は低いように思われる
- ・個人情報保護、プライバシーの尊重といった昨今の風潮のため、町内の実情を把握するのが困難な状態



## 町内会の目標(方針)

早い段階で全住民が安全に避難をする

## 町内会の特徴

洪水・内水ハザードマップによれば、当町内会の浸水深さは0.5m～1.0m未満の地域である

## 町内会で取り組んでいる防災対策

消防官の立合い・指導による法定の防災訓練を年2回行い、消火器や消火用ホースの取り扱いの訓練をしている

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

比較的若い世代が多く、力仕事なども協力してできる

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- 町内会としての歴史がまだ浅く、防災体制が未熟だが徐々に整備しつつある
- 今後は、有事を想定した訓練など充実を図る必要がある

記入日 2020/02/18

## 笠縫団地

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

### 【一次集合場所】

笠縫団地内のグラウンド



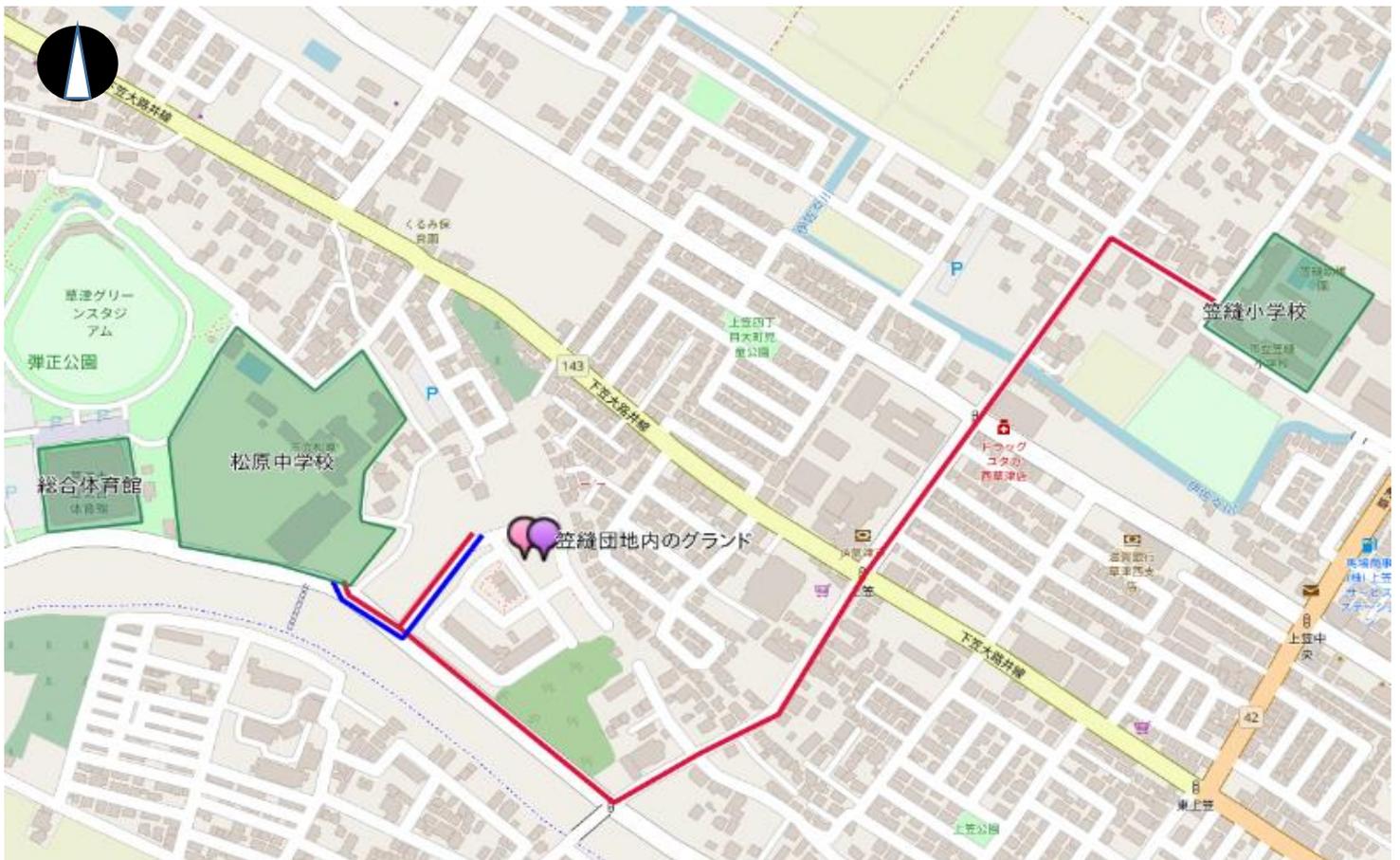
### 【町内の避難所】

笠縫団地内のグラウンド



### 【広域避難所】

水害時:松原中学校・総合体育館  
震災時:笠縫小学校



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

住民の皆さんに助け合う心がけ

## 町内会の特徴

- 高層(10階建て)なので、水害の場合は上階は被害は少ないとしても下階の層の方は被害は避けられない
- 震災の場合はエレベーターや建物の損壊によって避難は大変難しいとされる

## 町内会で取り組んでいる防災対策

年間行事である防災訓練が住民(町内行事)の方々には多数、参加して頂くように呼び掛けている

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

避難場所が近いという利点

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

高齢者が多い町内なので災害の時には困ることが多いのではないかとされる

記入日 2020/01/29

## 野村西町

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

### 【一次集合場所】

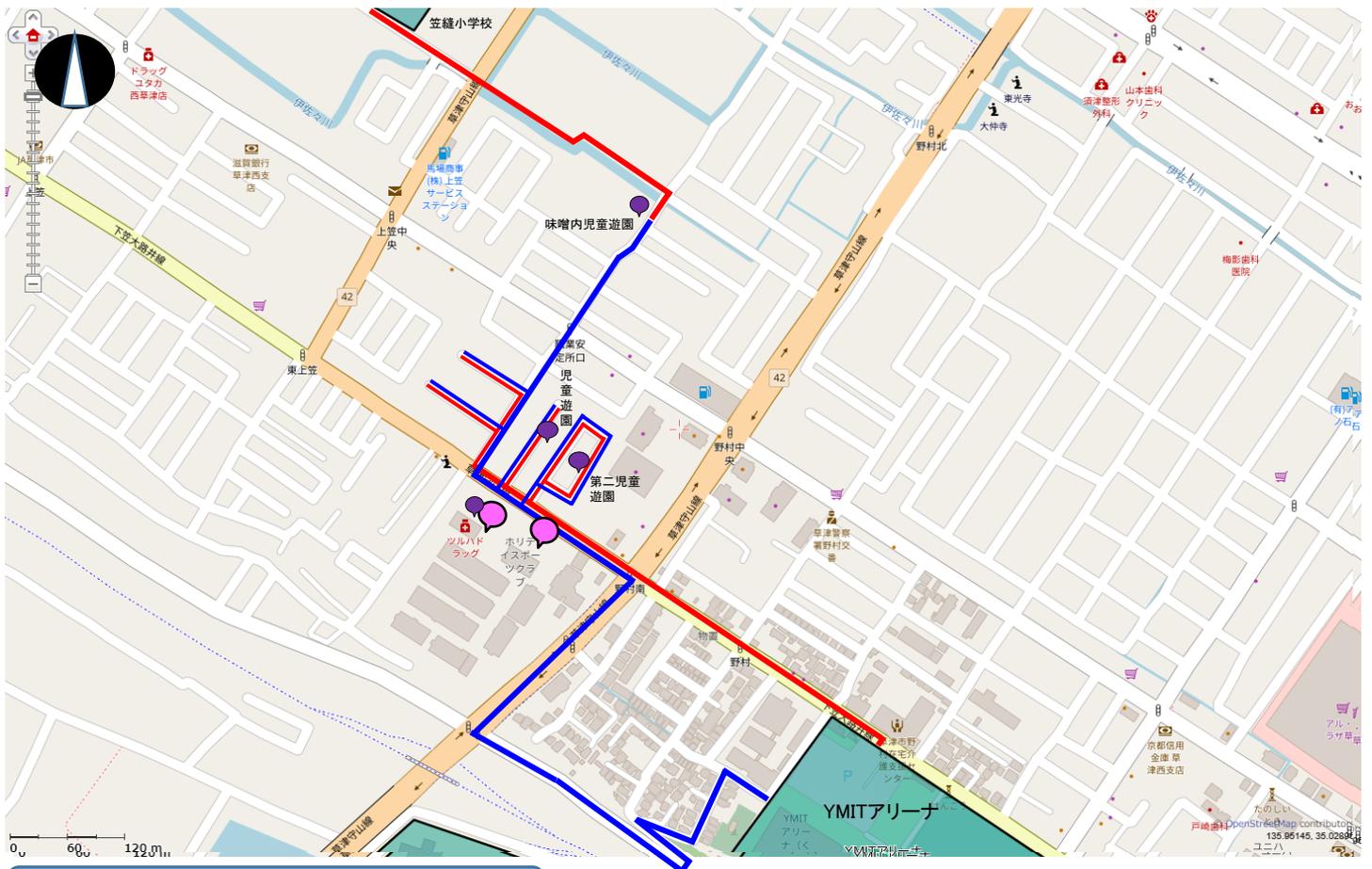
最寄りの地区公園(野村西町児童遊園、野村西町第二児童遊園、野村五丁目味噌内児童遊園)、 ツルハドラッグ駐車場

### 【町内の避難所】

- ツルハドラッグ駐車場
- ホリデイスポーツクラブ駐車場

### 【広域避難所】

YMITアリーナ・笠縫小学校



### 特記事項

## 町内会の目標(方針)

日頃から災害に備え、災害時は適切に対応できるような災害に強いまちづくりを進める

## 町内会の特徴

- 高齢者が多く、防災意識が低い
- 町内会活動にあまり積極的でない

## 町内会で取り組んでいる防災対策

春・秋季町内一斉清掃日の清掃後に実施している西消防署員の協力を得た防災対策の講習会でのレクチャーや実技指導など

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- 大きな道路があり、避難路が確保できる
- 天井川がなくなったので河川氾濫がない
- 丘山がなくて平地なので避難が比較的スムーズに行える
- 避難所となり得る空き地が多い

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- 老朽住宅があり、家屋倒壊が心配である
- 震災時、電柱やブロック塀などの倒壊や火災発生が心配である
- 道路が狭いエリアがあり、消防車が入れない

記入日 2020/01/29

## 野村南町

■ 水害時避難ルート 青色

■ 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

■ 広域避難所

### 【一次集合場所】

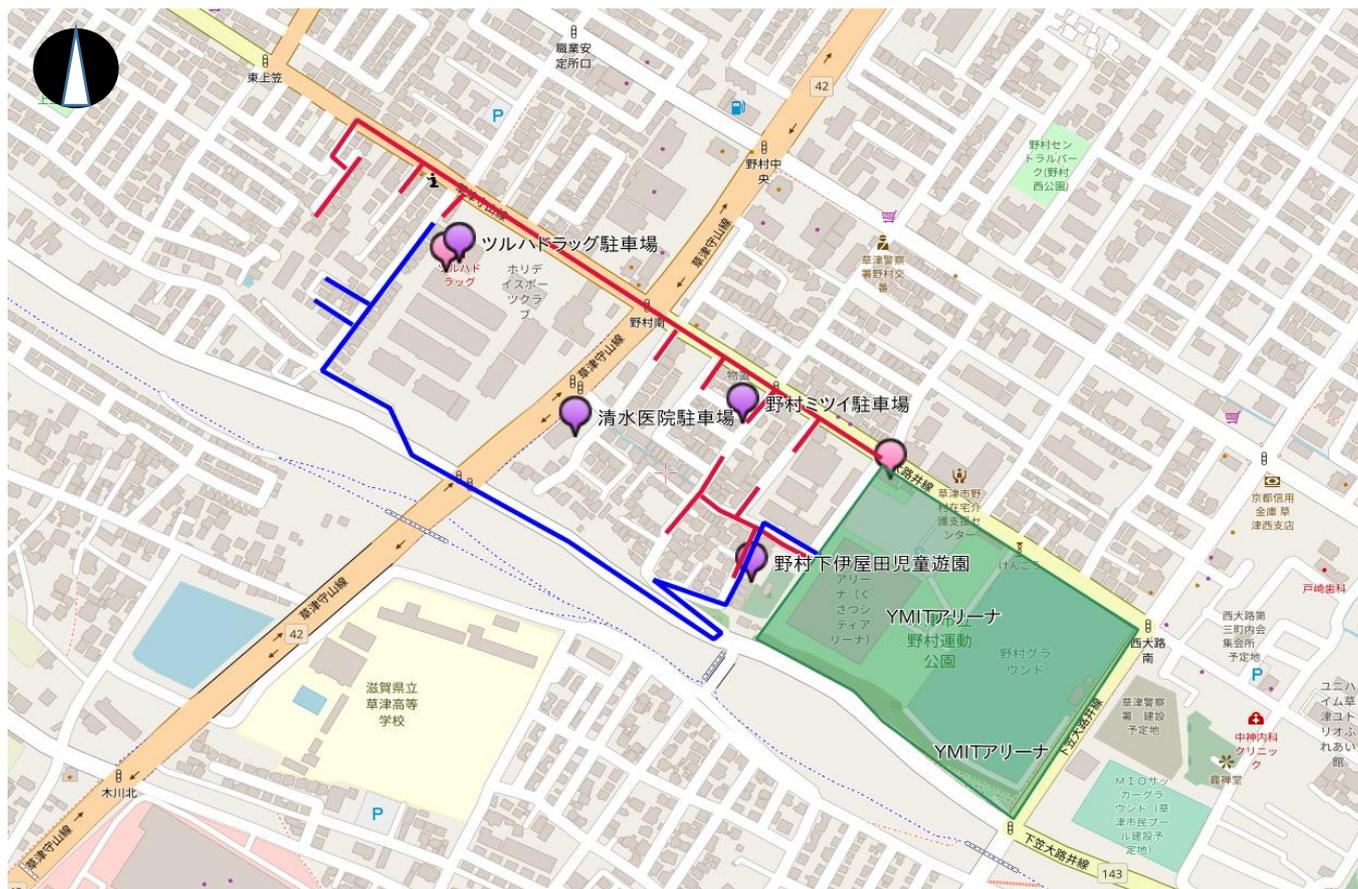
- ・野村下伊屋田児童遊園、清水医院駐車場
- ・野村ミツイ駐車場、ツルハドラッグ駐車場

### 【町内の避難所】

- ・ツルハドラッグ(ホリデイSC)駐車場
- ・YMITアリーナ駐車場

### 【広域避難所】

- ・YMITアリーナ



## 特記事項

- ・上3の坪、下3の坪は各町より、メイン道路を使用し、YMITアリーナ西側スロープより避難
- ・西部地区は下笠、大路線を中心にツルハドラッグ、YMITアリーナへ避難
- ・エリアによっては笠縫小学校(地震)、松原中学校・総合体育館(風水害)の避難あり。

## 町内会の目標(方針)

- ・震災時：東部YMITアリーナ、西部地区はツルハドラッグ、ホリデイ駐車場へ避難
- ・水害時：YMITアリーナ及び旧草津川高所新田橋周辺に避難

## 町内会の特徴

- ・昭和40年代から宅地開発が進み、340世帯高齢者70歳以上が200名を超え、空家も増えつつある
- ・戸建て及び商業施設地域であり、若い世代の急激な伸びは期待できない

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- ・防犯パトロール(町内巡回：偶数月1回・年6回)の実施
- ・自主防災組織の結成、改変
- ・消火栓7器、消火器33本点検・清掃(6月、12月：年2回)の実施
- ・令和元年度AED取扱い、実技講習実施40名参加、地域マップで確認

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- ・消火器は2010年以前、消火栓ホースは2003年以前の不良設備はない
- ・上3の坪は6m幅道路を基準とする
- ・広域避難場所のYMITアリーナに隣接している

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- ・西部地区は道幅が狭く、緊急時大型車両(消防車)が通れない
- ・道幅が狭く、住宅が密集、行き止まり地区が多い
- ・高齢者が多く災害時要援助者への協力、支援体制の確立が急務である

記入日 2020/01/29

## 野村中央町

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

### 【一次集合場所】

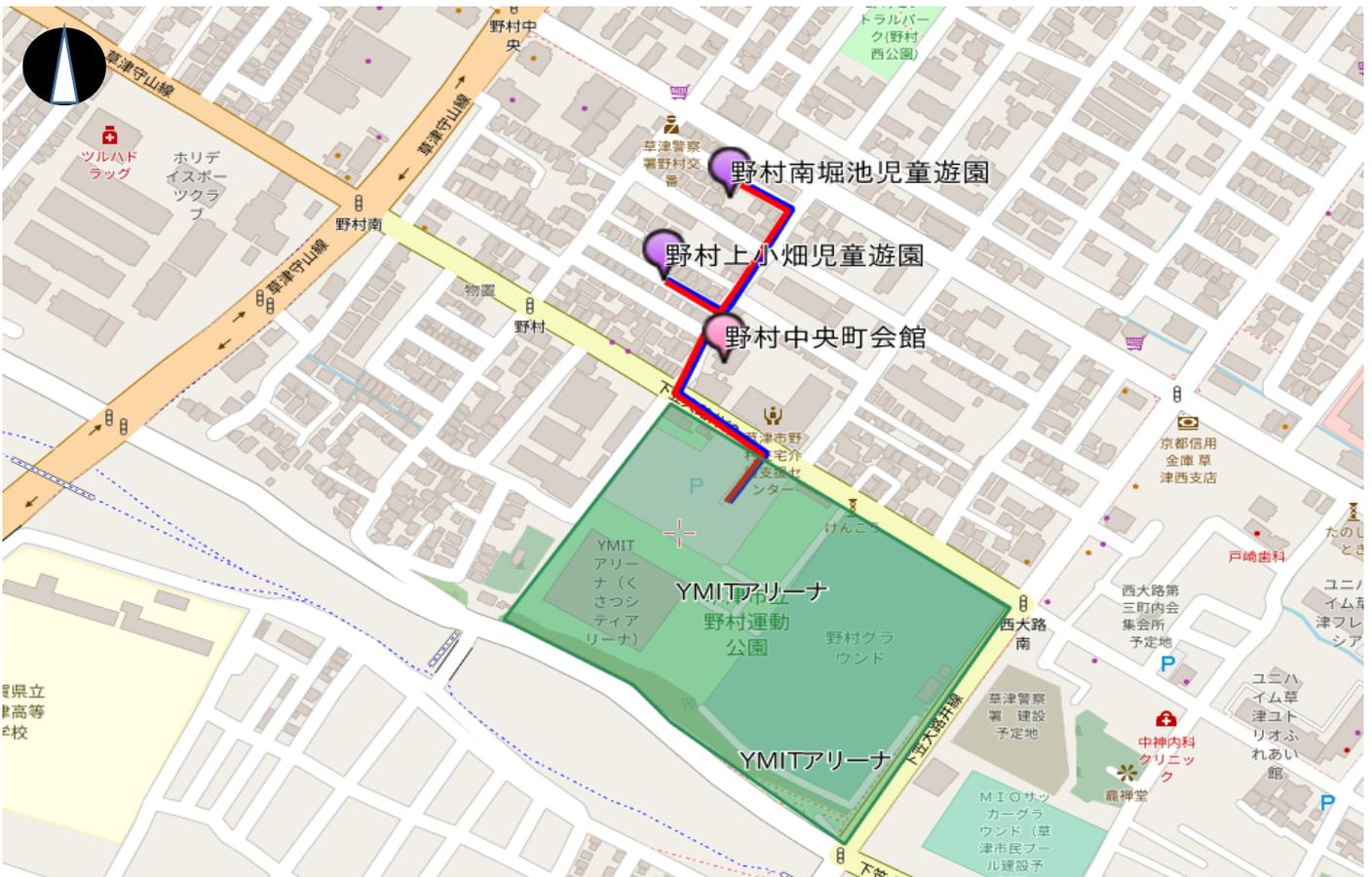
- ・野村上小畑児童遊園
- ・野村南堀池児童遊園

### 【町内の避難所】

野村中央町会館

### 【広域避難所】

YMITアリーナ



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

今年度目標

- (1)参加心が高まる各種行事
- (2)防犯・減災に向けた点検・研修

## 町内会の特徴

自治的意識の強い各組(三組で構成)の連合組織として町内会が成り立つ

## 町内会で取り組んでいる防災対策

年1回、その時々に応じた防災研修  
月1回、町内清掃を兼ねて防火設備の点検

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

各組の自立意識高い。住民の組への帰属意識高い

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

町内会構成員の高齢化にともなう避難行動の難しさ

記入日 2020/02/18

## 丸ノ内町

— 水害時避難ルート 青色

— 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

■ 広域避難所

【一次集合場所】

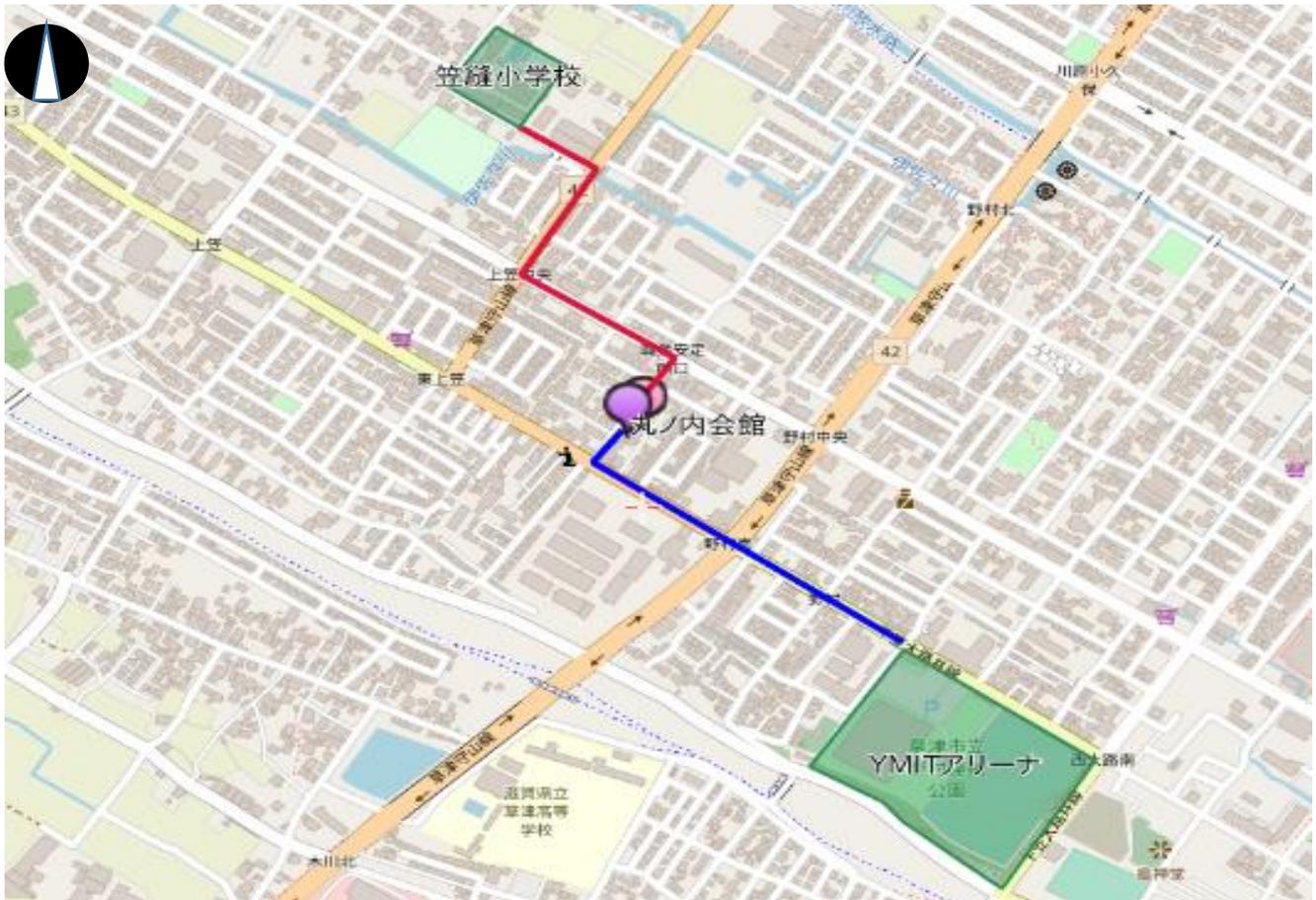
丸ノ内会館

【町内の避難所】

丸ノ内会館

【広域避難所】

水害時:YMITアリーナ  
震災時:笠縫小学校



## 特記事項

震度5弱で一次集合場所へ

## 町内会の目標(方針)

災害に強いまちづくりを進める

## 町内会の特徴

- ・少子高齢化の進んだ町内
- ・町内活動には協力的であり行動(年4回)には参加者がとても多く活気がある

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- ・集会所の保守点検、消火栓・用具点検
- ・防災訓練、救急訓練、図上訓練、起震車体験
- ・毎月 第1、3 月～金 夜まわり実施
- ・初期消火のための各戸に用水バケツ設置

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- ・一人として取り残さないため日頃から向こう3軒両隣をうたっている(自助・共助)
- ・コミュニティが出来ている

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- ・高齢者のひとり暮らしが多い
- ・災害に対する危機感が希薄

記入日 2020/02/18

## 下笠町馬場

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

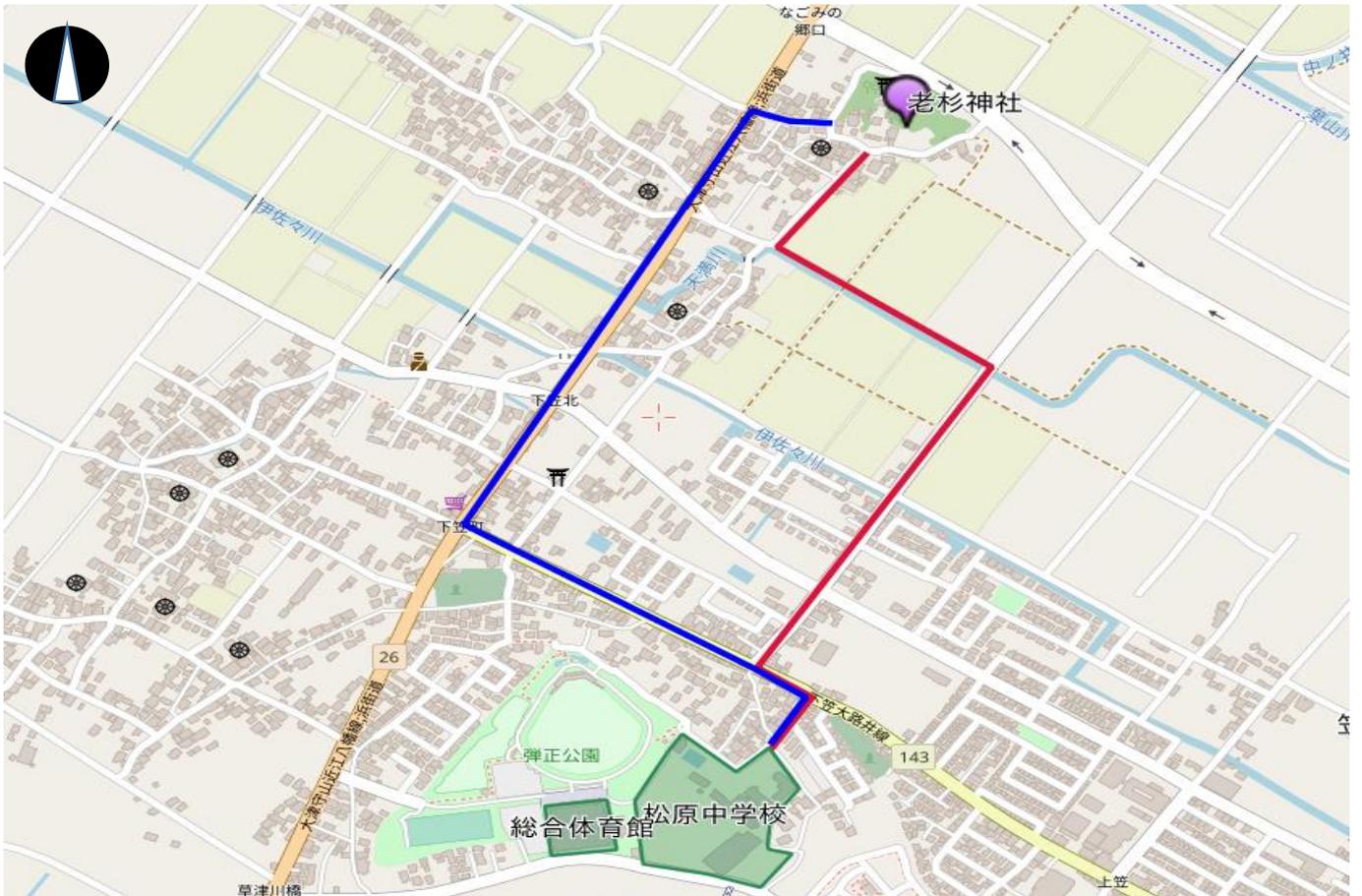
### 【一次集合場所】

老杉神社



### 【広域避難所】

総合体育館、松原中学校



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

会員相互の親睦を図ると共に、住みよい地域づくりと、住民の福祉の向上を図ることを目的とする

## 町内会の特徴

- ・馬場町は笠縫学区の北側に位置し、北に葉山川、南に天満川がある田園地帯の広がる農村地域である
- ・40世帯程度の小さな町内であるが、その分、町民のつながりは強く、様々な活動をとおして親睦を深めている

## 町内会で取り組んでいる防災対策

町内会では自衛消防隊を組織し、地域の防災消防活動を行っている

- ・屋外消火栓、器具庫の点検と保守
- ・屋外消火栓操法訓練の実施および町民への披露による防災啓発
- ・防災訓練(消火器の取扱い)
- ・年末防災夜警

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

古くから地縁のある地域で町民のつながりは強い

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- ・道路幅が狭く、緊急車両が入りにくい所がある
- ・次世代の担い手となる若い人は、独立して町内から転出し、親世帯のみが地域で暮らす世帯が増加傾向にある

記入日 2020/02/18

## 下笠町下出

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

### 【一次集合場所】

下出公園(会館前広場)



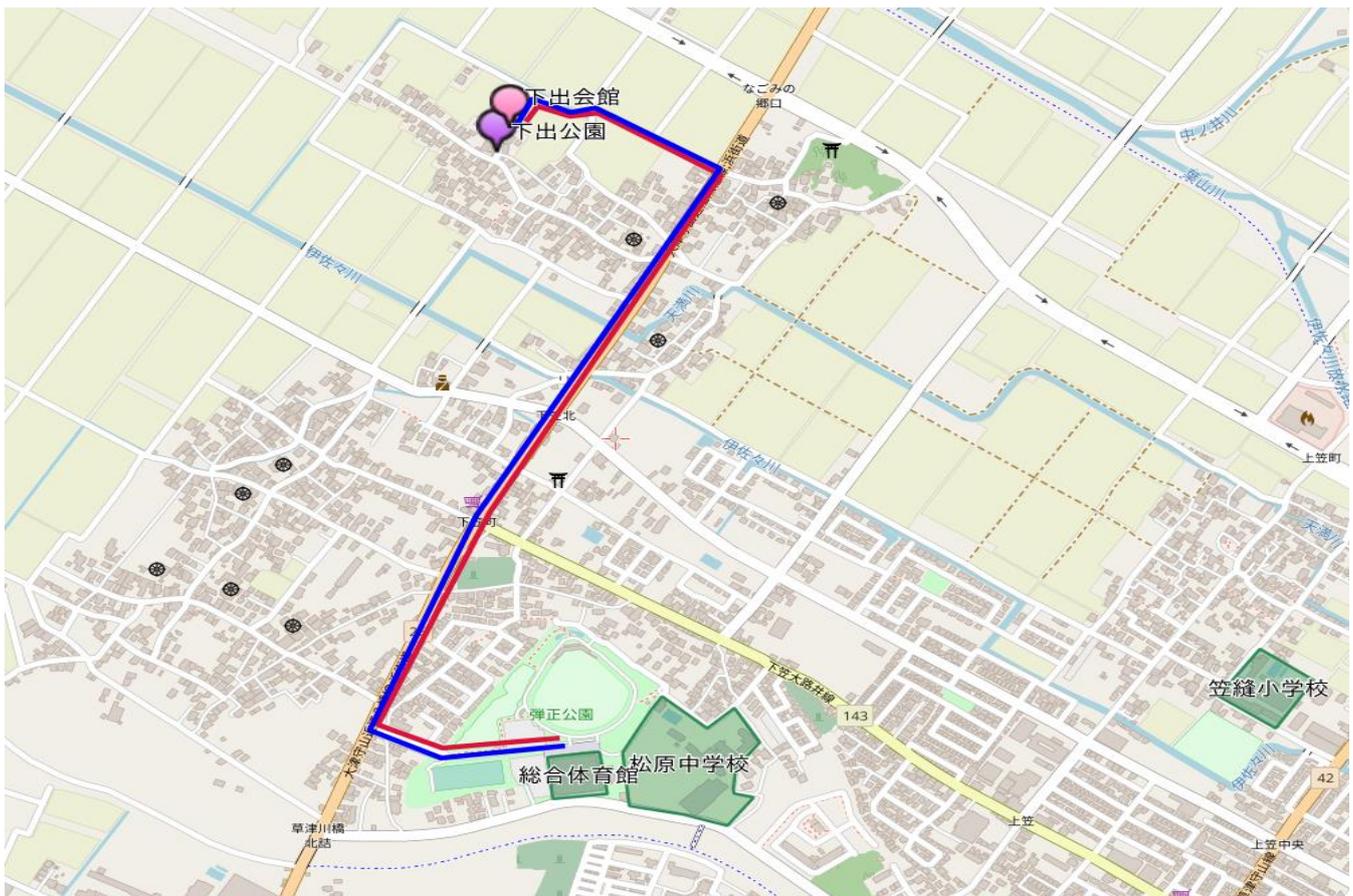
### 【町内の避難所】

下出会館



### 【広域避難所】

総合体育館



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

- 町内の相互連携を密にする
- 町内福祉の向上を図る
- 豊かな町内づくりと地域社会の発展に寄与する

## 町内会の特徴

高齢世帯が多い中で若い世代もそれなりに増えており、その活力に期待できる

## 町内会で取り組んでいる防災対策

### 下出自衛消防活動

- ① 消火栓、ポンプ車の点検
- ② ポンプ車による放水訓練

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

町内の相互連携が強い

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- 下出町内中央道路が狭く住宅が密集している
- 住宅の道沿いにブロック塀が多く倒壊の恐れがある

記入日 2020/02/18

## 下笠町井之元

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

### 【一次集合場所】

井之元ふれあい広場



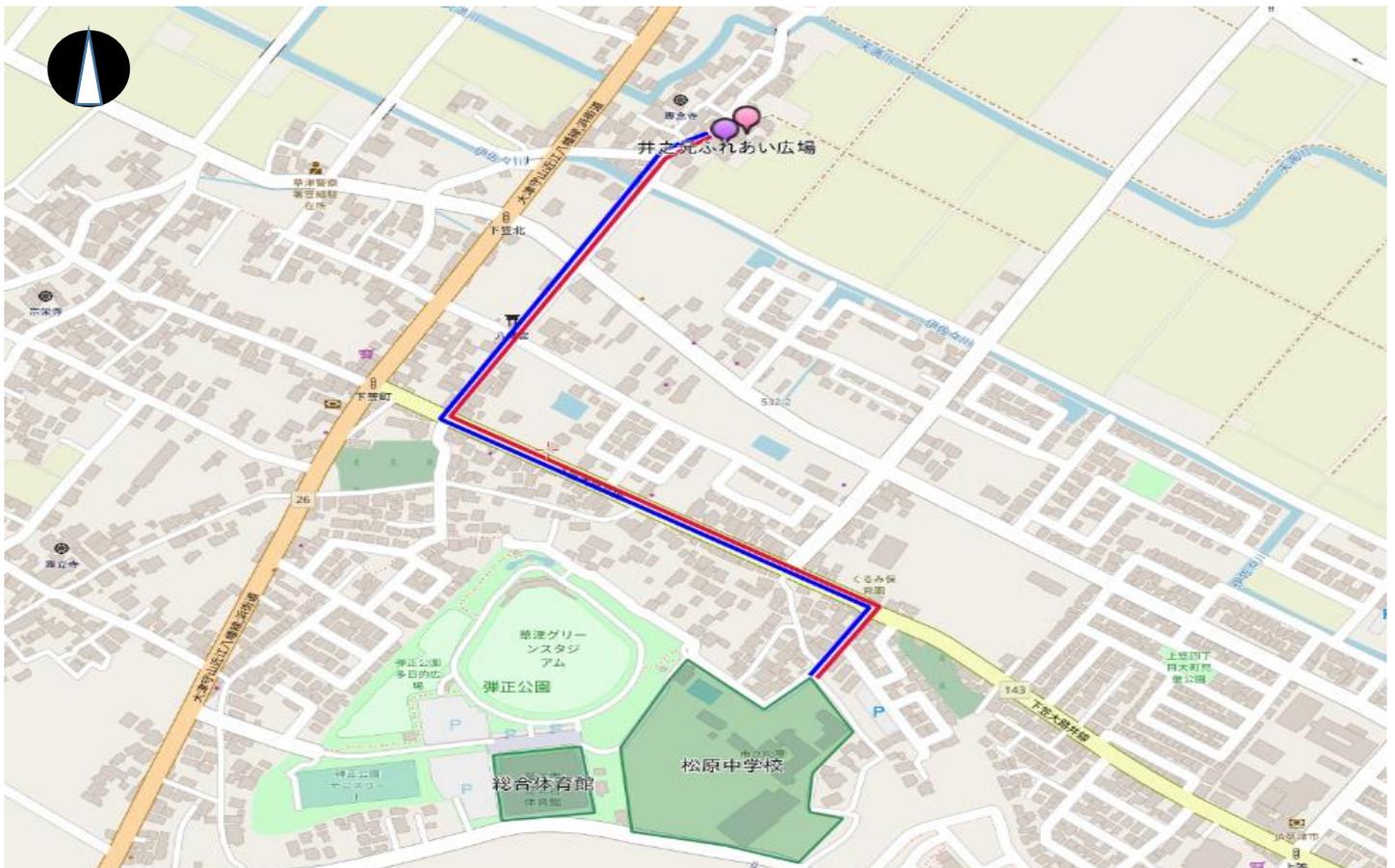
### 【町内の避難所】

井之元ふれあい広場



### 【広域避難所】

松原中学校



## 特記事項

避難経路を示さなくても避難場所がわかっていると思う

## 町内会の目標(方針)

会員相互及び会内外の諸団体との協力、協調のもとに、会員の教養を高め、福祉を増進し会員の交流と親睦及び地域生活環境の整備や防災に努め、または行政との協議・協力を進めつつ住民ための町づくりを行うことを目的とする

## 町内会の特徴

井之元町は北に天満川、南に伊佐々川との間にある町である

## 町内会で取り組んでいる防災対策

避難訓練は行っていないが、両河川があるため小型ポンプによる消防放水訓練を2ヶ月に1回実施している

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- ・平成7年に火災が発生して以来消防意識が高まり、消防放水訓練、消火栓の点検を実施している
- ・住民全体の団結力も強い

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

町民158名のうち、65歳以上は53人と、高齢化が進み、いざという時に避難が困難になりつつある

記入日 2020/02/18

## 下笠町市場

— 水害時避難ルート 青色

— 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

■ 広域避難所

### 【一次集合場所】

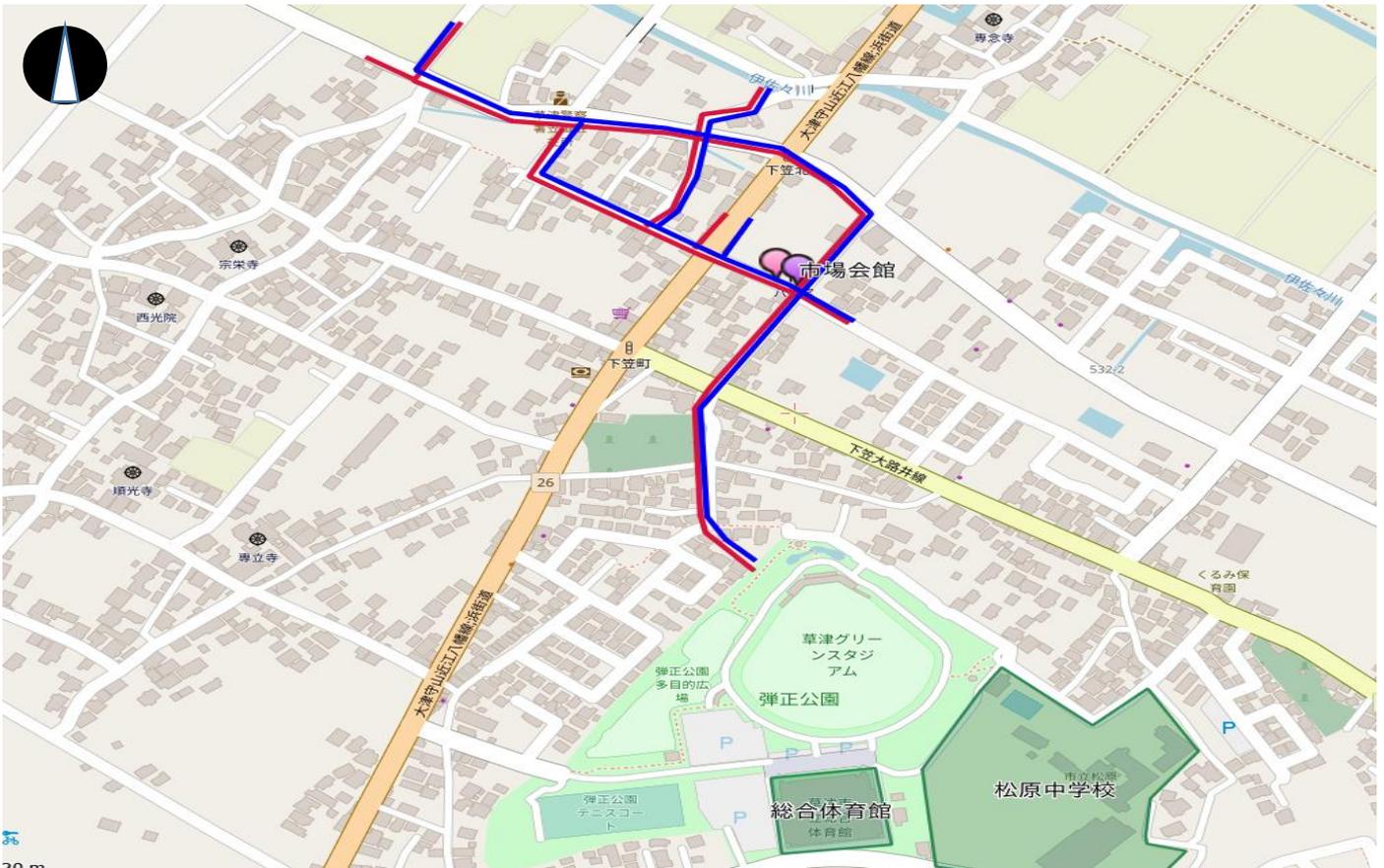
市場会館

### 【町内の避難所】

市場会館

### 【広域避難所】

総合体育館



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

会員の親睦と相互扶助により、地域社会の発展と住民福祉の増進を図ることを目的とする

## 町内会の特徴

世帯数は47戸で、少子化高齢化が進んでいる

## 町内会で取り組んでいる防災対策

年1回防災訓練、救急訓練実施

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

町内会の世帯ごとの家族構成と緊急連絡先を把握している  
(管理及び運用においては町内会が保管して、有事の時のみ使用する)

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- ・高齢化により避難が困難になりつつある
- ・使用道路において狭い所がある

記入日 2020/01/29

## 下笠町北出

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

### 【一次集合場所】

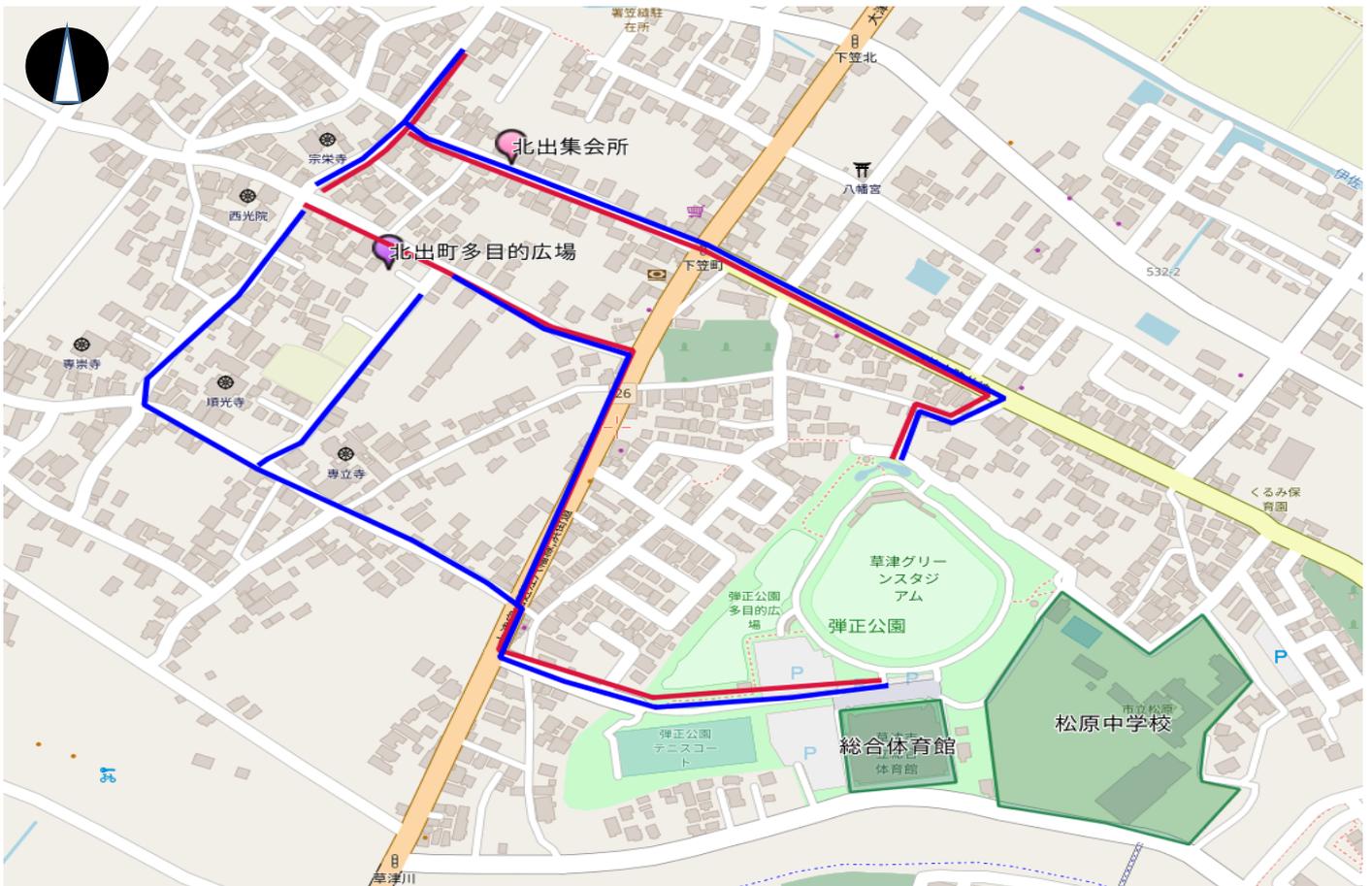
北出町多目的広場

### 【町内の避難所】

北出集会所

### 【広域避難所】

総合体育館



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

- 一次集合場所、町内避難所、広域避難所の町民への周知徹底
- 水害、震災時の避難ルールの周知徹底
- 町民による救済意識の自覚の醸成

## 町内会の特徴

高齢化により単身世帯が12世帯、二人世帯が14世帯である

町内の避難所(集会所の利用)

- 高齢者を中心に百歳体操や老人会の総会、忘年会を開催
- 町内会の総会、初集会、農業生産組合の会合に使用
- 老人クラブの女性部による集会所の清掃を行い、その後交流会を実施

一次集合場所(多目的広場)

- 老人クラブを中心に月数回のグランドゴルフの練習に利用
- 町三役による広場の清掃及び除草作業(4~11月月1回)

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- 消火栓の点検と保全
- 集会所の消防法にもとづく保守点検の実施
- 防災訓練(消火器の取扱い)や救急訓練(AEDの取扱訓練)

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

昔からの付き合いで、隣近所では家族構成を知っており、水害・震災時の救済対象(取り残された人たちは)は周知している

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- 道路幅が狭く、住宅が密集しており消防車や救急車が入れない住宅がある
- 町内の排水路が(一部ある)なく、大雨になると浸水の恐れがある
- 町内に防災スピーカーがなく、他町内会にあるが暴風雨時には聞こえにくい(2ヶ所のスピーカーの音で打ち消し合う)
- 単身世帯12世帯、二人世帯14世帯の計26世帯のうち過半数が高齢所帯である。→支援体制が確立していない
- 日中の大災害では高齢者のみの町内会であり救済が困難である
- 古い木造建築であり、救済が困難(S50年前後の田舎住宅で建物面積が大きい)

記入日 2020/02/18

## 下笠町寺内

■ 水害時避難ルート 青色

■ 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

■ 広域避難所

【一次集合場所】

寺内広場

【町内の避難所】

寺内集会所

【広域避難所】

総合体育館



## 特記事項

震災時は集会所へは寄らず一次集合場所から広域避難所へ

## 町内会の目標(方針)

- 個人の防災、減災意識の高揚
- 町民の生命、安全を守る
- 自助、共助の育成

## 町内会の特徴

- 平坦な地勢
- 液状化現象が心配される地域
- 少子高齢化が著しい

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- 年に一度防災訓練実施
- 今後も消防、震災、水害を想定して進める

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- 町内会の団結力はある
- 町内会の人間関係は綿密である

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- 各世帯は位置的にまとまっているが、一部離れている世帯もある
- 独居高齢者または高齢者夫婦のみの世帯が増加傾向にある
- 集落の周りは比較的幅員を要する道路があるものの集落の中は狭い道路である



## 町内会の目標(方針)

会員の相互関係を密にして親睦を深め、住民の福祉の増進を図ると共に地域社会の発展に寄与することを目的とする

## 町内会の特徴

- ・下笠町の南西部地域に位置し、町内の西側は圃場整備田が琵琶湖まで広がっている63戸の農村集落
- ・町内において高齢化が進んでいるが、老人クラブ活動やサロンを通して、高齢者にやさしいまちづくりが取り組まれている

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- ・災害に備えて通報、避難訓練を年1回 消火訓練を年2回実施している
- ・また、毎週日曜日には町内の防犯・防災パトロールを実施している

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- ・昔からの住民がほとんどを占めていて、つながりが強い
- ・ゴミ集積所など町内のマナーが比較的良い
- ・地域交流、親睦事業等の活動により地域の連帯感が強い

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

町内道路の道幅が狭く、緊急時大型車両(消防車)が入れない状況で、震災時には電柱やブロック塀などの倒壊により被害が大きくなる恐れがある

記入日 2020/02/18

## 下笠町小屋場

■ 水害時避難ルート 青色

■ 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

■ 広域避難所

### 【一次集合場所】

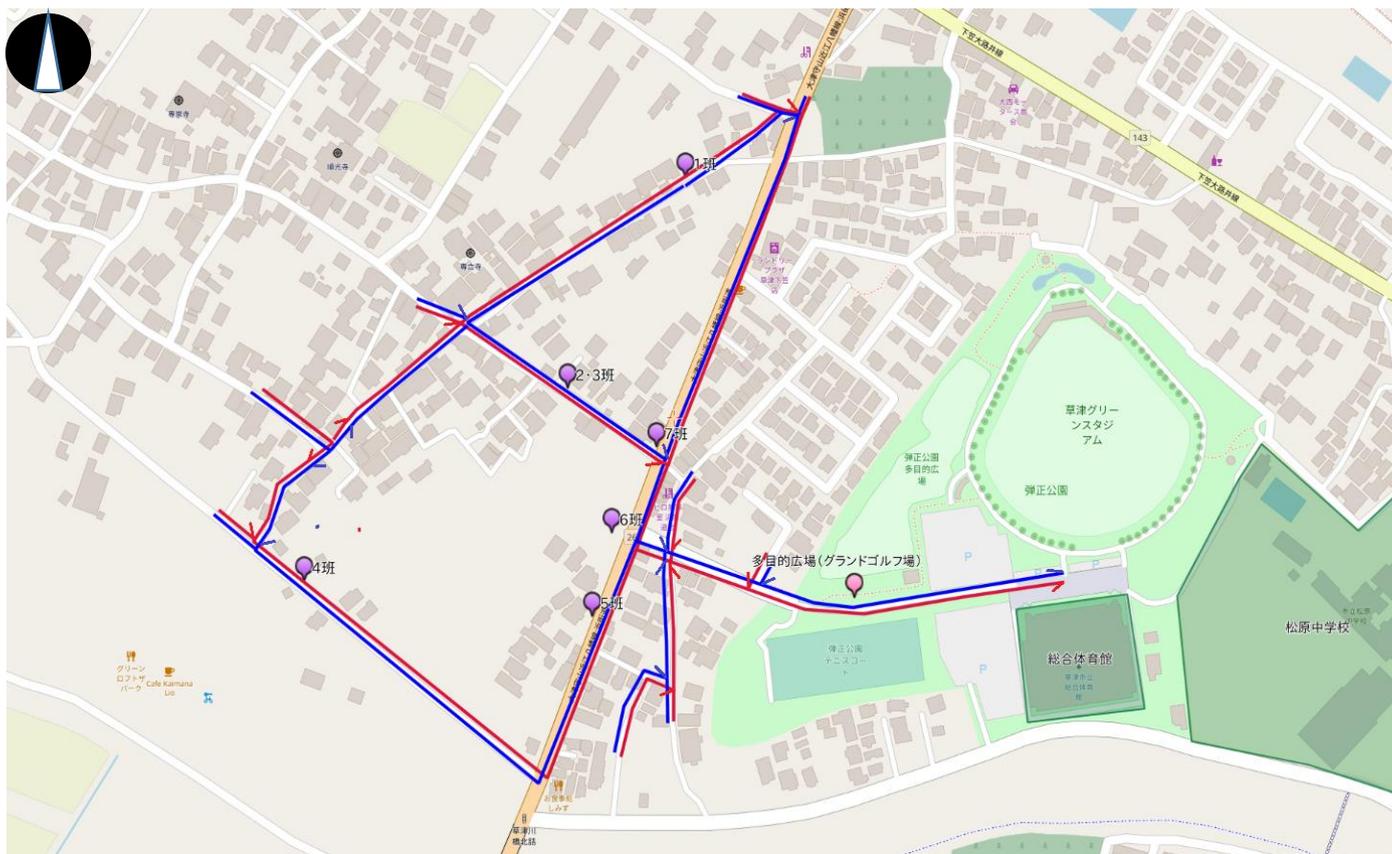
1班～7班の班別に指定された6ヶ所の一次集合場所に避難する

### 【町内の避難所】

草津総合運動公園内の多目的広場(グランドゴルフ場)に集まる

### 【広域避難所】

総合体育館内



## 特記事項

- 震災時も水害時も避難ルートは変わらない
- 隣近所で協力し合う
- 極力大きな道を通る
- 老人や体の不自由な人には一声かける
- ブロック塀倒壊や瓦の落下に気をつける。

## 町内会の目標(方針)

全住民の早期避難

## 町内会の特徴

- 浜街道の西側の家屋と東側の家屋では家の立地状況がやや異なる
- 老人クラブを中心にグランドゴルフと百歳体操が定期的に行われ参加者も多く元気なお年寄りが多い

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- 町内自主防災会組織表に基づき、災害時の役割分担を決め、毎年1回、自主防災員は全員集まり、災害時の役割を学習する
- 自主防災員は各班から選出(任期は2年)約25名
- 避難経路図に基づき避難訓練も実施済
- 毎年、消火器具格納庫や消火器の点検と保全実施

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- 早くから自主防災組織表や避難経路図が出来ていた
- 毎年、自主防災会議と訓練を実施
- 広域避難場所が比較的近くにある

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- 町内の南東部で浸水が予想されている地域がある
- 震災時には液状化の可能性はある
- 古いブロック塀や道にせり出した屋根の瓦の落下が心配
- 一人住まいの老人や高齢者が多い

記入日 2020/02/18

## 下笠町浜

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

### 【一次集合場所】

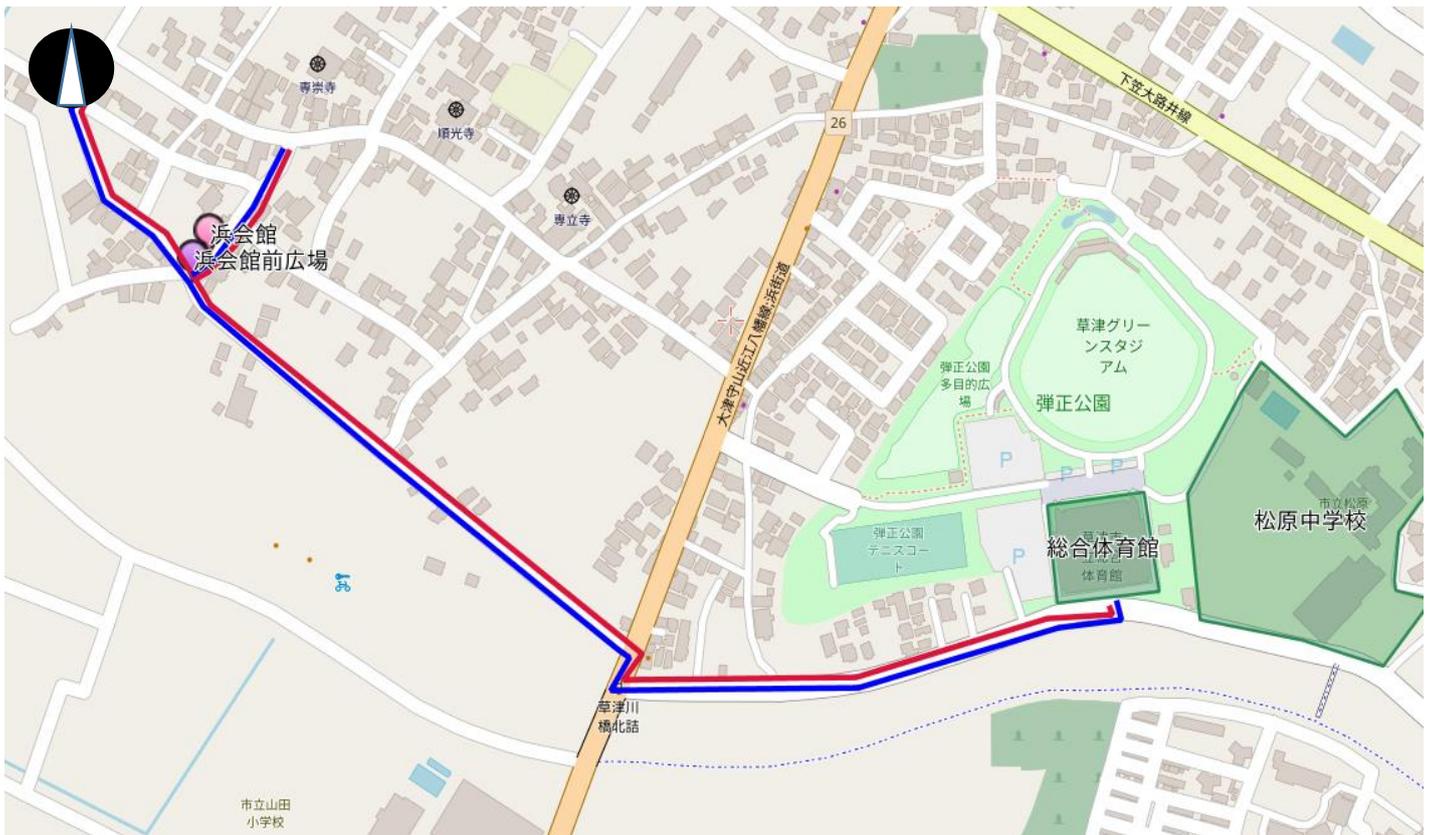
浜会館前広場

### 【町内の避難所】

浜会館

### 【広域避難所】

総合体育館



### 特記事項

災害時、広域避難所の総合体育館へ一本道を集団で移動集合する。

## 町内会の目標(方針)

会員の相互扶助並びに福祉の増進を図り、文化の向上と地域の活性化のための共同活動を行うことを目的に、防災意識の向上と全会員の連帯を密にしたお互いの連携を深める。

## 町内会の特徴

浜町は、笠縫学区の中でも旧草津川沿いで、学校まで一番遠い所であり、民家と田畑半々の旧家の並ぶ町並みで、小学校より最北西に位置する。

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- ・防災避難訓練(年2回)
- ・自治会館、消防設備の法定点検、自主点検(各年1回)
- ・町内全域の消火栓器具の点検

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

町内会の高齢者クラブ浜咲会と相互連携を保ち、そこに子供会も加わり、浜町内会として一体化活動を実践している。

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- ・町内、道路幅が狭く、緊急車両が通行できないところがある。
  - ・町民130名中65歳以上は、48名と高齢化が進み、いざという時に避難が困難になりつつある。
- 緊急時要介護者 8名

記入日 2020/02/18

## 下笠町松原

■ 水害時避難ルート 青色

■ 震災時避難ルート 赤色

■ 一次集合場所

● 町内の避難所

■ 広域避難所

### 【一次集合場所】

松原会館  
上笠堤南児童遊園



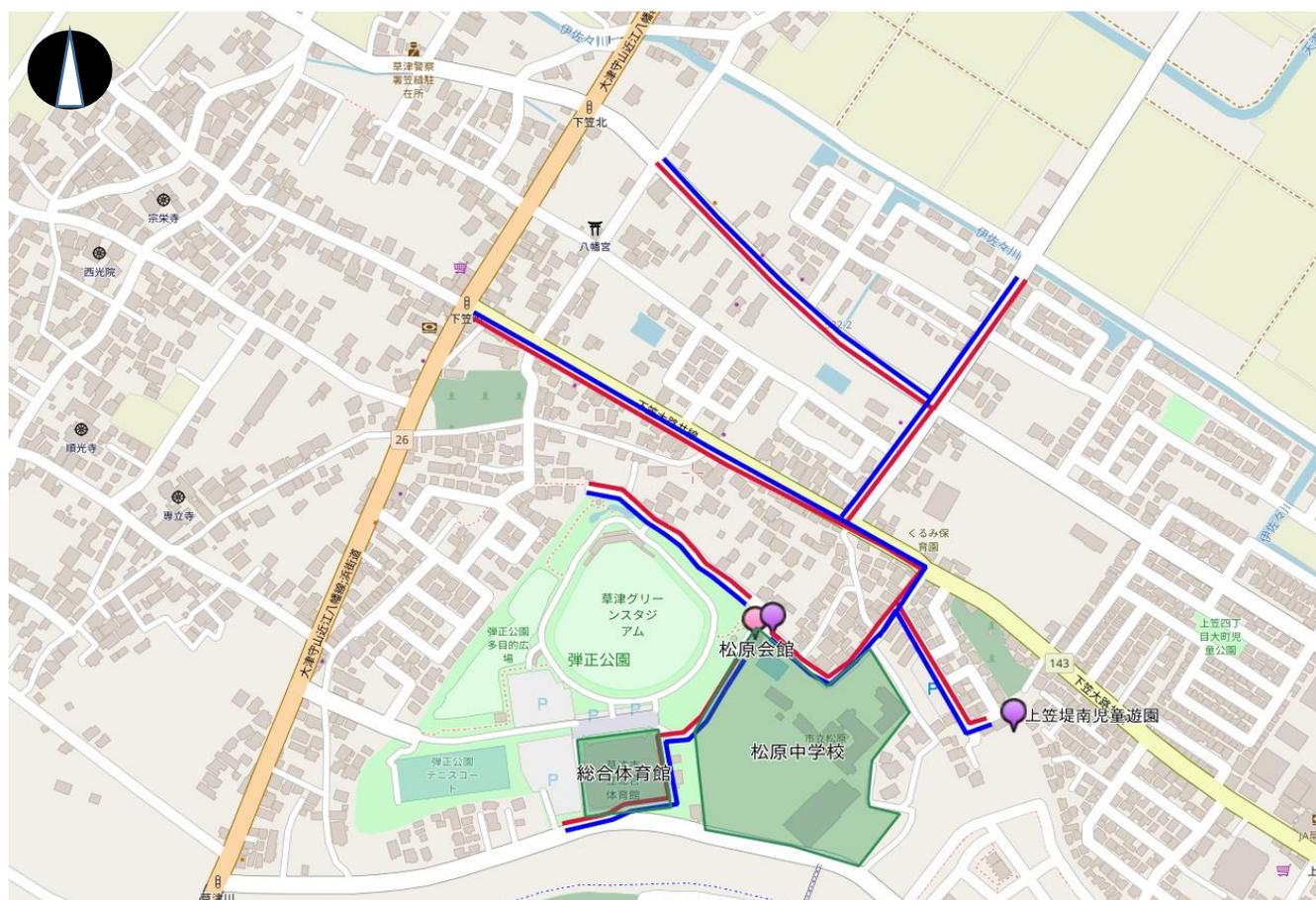
### 【町内の避難所】

松原会館



### 【広域避難所】

松原中学校、総合体育館



## 特記事項

- 上笠堤南児童遊園も一次集合場所になっている
- 避難経路は災害に応じて判断する

## 町内会の目標(方針)

住みよい環境と安全な町内づくり

## 町内会の特徴

- 高齢化が進んでいる
- 若い世代の転入も増えつつある

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- 防災訓練年2回実施
- 町内会自主防災組織がある
- 会館消防設備・防災設備等の点検年1回実施

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- 広域避難所が同じ町内に2ヶ所ある
- 松原中学校・総合体育館(グリーンスタジアム・弾正公園)

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- 各世帯の人数の把握ができていない
- 高齢者のひとり暮らしが多くなっている

記入日 2020/02/18

## 松陽台

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

### 【一次集合場所】

松陽台会館



### 【広域避難所】

総合体育館、松原中学校



## 特記事項

## 町内会の目標(方針)

- 1.参加すること
- 2.ひとの話を聞くこと
- 3.自分の意見を述べること
- 4.譲り合う気持ちを持つこと
- 5.反省すること
- 6.実践し「明るく楽しい自治会」を目指す

## 町内会の特徴

高齢者から壮年、若年、青年層もいて子供も比較的多く、世帯数はそれほど多くないが、バランスのよい年齢構成となっている

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- 1.年に1回の防災訓練
- 2.随時の防災機材の点検
- 3.消火栓の点検

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

- ・団地形式で区画割りされており、幅員の広い道路が整備されていて、緊急車両等の通行にも支障がない
- ・広域避難所に非常に近い

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

現役世代が多く、また核家族が多いため、平日昼間は不在の家も多く、この時間帯の災害には不安を覚えている

記入日 2020/02/18

## ユートピアタウン下笠

- 水害時避難ルート 青色
- 震災時避難ルート 赤色
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

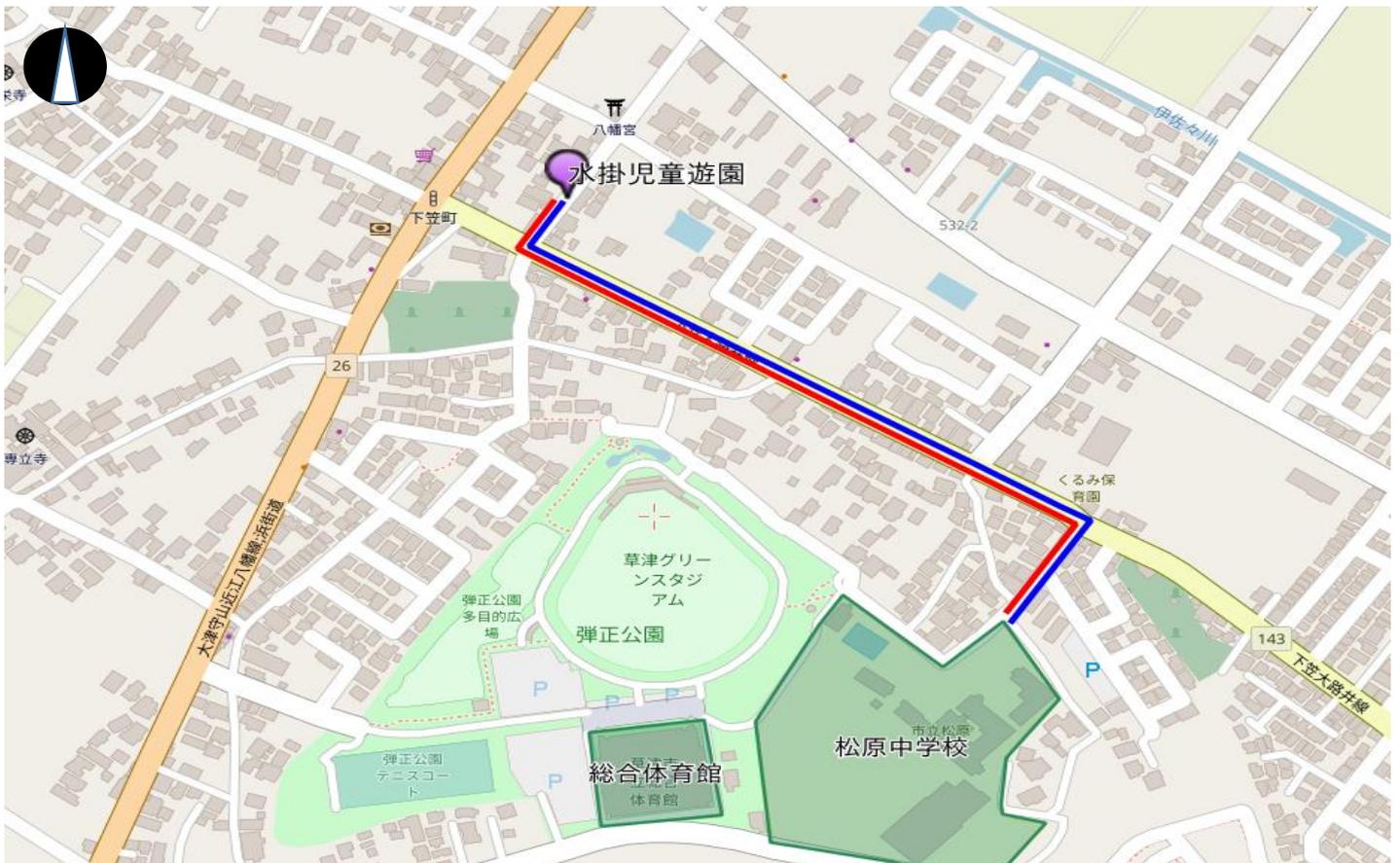
### 【一次集合場所】

水掛児童遊園



### 【広域避難所】

松原中学校、総合体育館



### 特記事項

## 町内会の目標(方針)

- 一次集合場所、広域避難所の周知と避難時ルールの検討
- 住民間の意思疎通を図り、災害時の協力体制を構築する。

## 町内会の特徴

- 引っ越ししてきたばかりの世帯が多く、周辺の情報の知識があまりない
- 子供もまだ小さい子が多い

## 町内会で取り組んでいる防災対策

- 防災訓練 年1回実施
- 町内会自主防災組織がある。
- 随時、防災機材の点検

## 町内会の「得意」「強い」「有利」「すぐれている」

若い世代が多く、行動力がある。

## 町内会の「不安」「弱い」「不利」「劣っている」

- 近所の情報が少ない
- まだ土地の詳細を把握できていない

# 今後の課題

笠縫学区として今後の課題は、それぞれの地区内や地区同士での連携を強化するための方針を検討する。

- 広域避難所に到達するまでの避難訓練を毎年一回開催する
- 災害時の行政・学区・町内会との密な連絡体制を構築する
- 避難所ごとの体制づくりを決める
- 町内会ごとの緊急連絡網による安否確認の体制づくりと、一次集合場所に参集する基準を定める
- 誰一人取り残さないような避難体制を構築する



# おわりに

近年、災害規模が大きく、他県においては、甚大な被害をもたらしています。この地域では、大きな被害を受けるに至らず「この辺はいい所」という安堵の声をよく耳にします。

しかし、「いつ」「どのような」災害が起こるとも限りません。住民の皆さんの防災意識と地域の防災力の向上を図るとともに、「もしも」の災害に備え、今回「笠縫学区地区防災計画」を策定しました。

この計画をまとめるに際しては、龍谷大学の石原凌河准教授にアドバイザーとしてご助言いただき、資料の作成にあたっては、笠縫学区の各町内会長の皆さんにご協力をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

計画の策定には、地区防災計画策定委員会を設置し、議論を重ねる中で様々な課題が挙がりました。結論が出ていない内容もあり不十分な所が多々あります。この計画が最終ではなく、引き続き、実施、検証、見直しを行い、地域の実情に合った防災対策・体制となるよう、さらなる議論を重ねてまいりたいと考えます。

そして、安心安全に住み続けられるまち笠縫学区を、地域の皆さんとともに築いてまいりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

笠縫学区まちづくり協議会 会長 中村 茂和  
笠縫学区地区防災計画策定委員長 松村 幸子

このたびは草津市笠縫学区において、アドバイザーとして充実した内容の地区防災計画を策定できたことを大変嬉しく思います。

地区防災計画は策定して終わりではありません。地区防災計画の内容を基に、日頃の防災訓練や活動を通して検証し、計画の内容を更新し続けることが大切です。地区防災計画策定の過程こそが地域防災力そのものなのです。

地区防災計画策定を契機に、今まで以上に充実した地域防災活動を展開され、来るべく大災害にも対応できる地域防災力を結実されることを願っています。

草津市笠縫学区地区防災計画策定委員会アドバイザー  
龍谷大学政策学部 石原凌河

# 笠縫学区地区防災計画策定委員会

敬称略・順不同

笠縫学区地区防災計画策定委員

委員長	松村 幸子
副委員長	山田 一豊
副委員長	油布 輝義
	中村 茂和
	永原 光一
	長澤 敏一
	林 宏行
	堀井 光洋
	小寺 弘明
	山元 讓治
	山元 亮太
	山元 弘司
	藤田 健
	田淵 美紀
	三反田 美希

事務局

	吉田 和子
	相原 謙一
	松村 晴美

龍谷大学政策学部

准教授	石原 凌河
	西田 佳弘
	坊農 豊彦
	山田 美鈴

一般財団法人関西情報センター

## 地震が起きたらどうするか？



大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいもの。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。地震が起きても「あわてず、落ち着いて」行動するために、以下の行動パターンを覚えておきましょう。

### 地震発生

- 落ち着いて、自分の身を守る  
机の下などへもぐる。倒れてくる家具や落下物に注意する。
- 火の始末はすばやく  
コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。無理はしない。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する

### 1～2分

津波、山・がけ崩れの危険が予想される地域はすぐ避難

- 火元を確認、出火していたら初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴をはく  
ガラスの破片などから足を守る。
- 非常持出品を手近に用意する



### 3分

- 隣近所の安全を確認  
特に一人暮らし高齢者など災害時要援護者がいる世帯には積極的に声をかけ、安否を確認する。火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火をする。
- 余震に注意  
大きな地震の後には余震が発生する。

### 5分

- ラジオなどで情報を確認  
間違った情報にまどわされないようにする。
- 電話はなるべく使わない
- 家屋倒壊などの恐れがあれば避難する  
ブロック塀やガラスに注意。  
車は使用しないこと（山岳部などの一部地域を除く）。



- 子どもを迎えに  
保育所（園）・幼稚園や小・中学校に子どもを迎えに行く。  
自宅を離れるときには、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す。
- さらに出火防止を  
ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを切る。



### 5～10分

- 消火・救出活動  
隣近所で協力して消火や救出をする。  
あわせて消防署等へ通報する。



- 生活必需品は備蓄でまかなう  
災害発生から3日間は、外からの応援は期待できない。
- 災害情報、被害情報の収集  
市区町村の広報に注意する。
- 壊れた家には入らないこと
- 引き続き余震に警戒する

### 10分～数時間

### ～3日くらい



- 自主防災組織を中心に行動を
- 集団生活のルールを守る
- 助け合いの心を

### 避難生活では

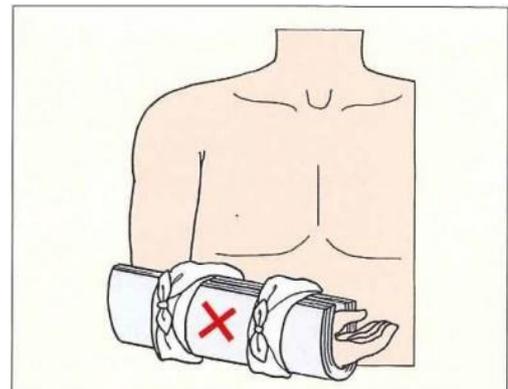
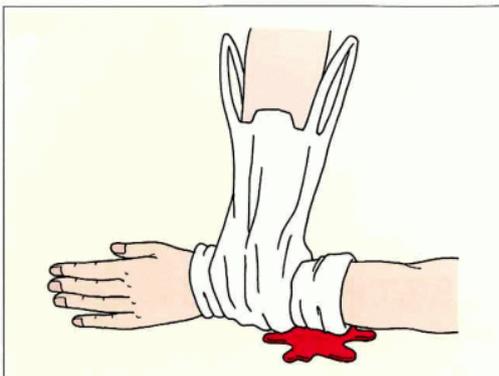
## 救出活動

- 閉じ込められている人に声をかけ安心させる。
- 閉じ込められている場所を聞き出す。
- 挟まれているところがないか確認する。
- 移動できるものを移動させ、救出しやすい場所をさがす。
- ジャッキやバールなどを使って、乗っているものを持ち上げる。
- できた隙間にブロックや角材などを入れ支える。



## 救護活動

- ガーゼ、包帯、そえ木など救護に必要なものを集める。
- 出血している場合
  - 清潔なガーゼなどを傷口にあて押さえる。
  - ビニール袋などを使い、直接血液に触れないようにする。
- 骨折している場合
  - そえ木を当て、包帯などで固定する。
- 必要があれば、病院へ連れていく。



## 消火活動

- 火災の状況を確認する。
- 河川、プール、防火水槽など水利を探す。
- 消火活動を行う。
  - ① 小さな火災の場合 ⇒ ・消火器、バケツルー
  - ② 大きな火災の場合 ⇒ ・小型動力ポンプ

※ホースが足りない場合、消火栓BOX内のものを活用する。

- 消火活動の考え方。
  - 消火可能であれば、消火に力を注ぐ。
  - 消火が難しい場合は、燃え広がらないようにする。
  - 危険が差し迫ってきたら、避難する。

- 小型動力ポンプの使い方。
  - ① 吸管を水利に入れる。
  - ② エンジンをかける。
  - ③ 真空ポンプで水を吸い上げる。
  - ④ ホースや筒先をつなげる。
  - ⑤ 筒先を構える。
  - ⑥ ポンプの放口を開け、放水する。





# 草津市笠縫学区 学区災害対策本部資料

## 地震編

令和3年（2021年）6月現在

# 笠縫学区災害対策本部の役割

- 大規模災害時、地域住民が自らの安全安心を確保するため果たすべき役割を総括する学区災害対策本部を設置する。
- 学区災害対策本部は、災害が発生し、またはその恐れのある場合において開設し、災害の発生がなく、また災害の応急措置が完了したとき閉鎖する。
- 緊急に災害情報の伝達と被害状況の把握を行い、併せて被害の防止、軽減および災害対策を確立する。

草津市



## 学区災害対策本部 (笠縫まちづくりセンター)

### 上笠

上笠町第一  
上笠町第二  
上笠町第三  
上笠町第四  
上笠町第五  
上笠町第六  
O・Hプラザ草津  
笠縫団地

### 野村

野村西町  
野村南町  
丸ノ内町  
野村中央町

### 下笠

下笠町馬場  
下笠町下出  
下笠町井之元  
下笠町市場  
下笠町北出  
下笠町寺内  
下笠町南出  
下笠町小屋場  
下笠町浜  
下笠町松原  
松陽台  
ユートピアタウン下笠

※ 本資料では大規模な地震発生時における笠縫学区災害対策本部の役割を想定している。

# 笠縫学区災害対策本部の役割

## 【学区災害対策本部設置基準】

- 草津市に震度6弱以上の規模の地震が発生したとき
- 草津市に特別警報が発令されたとき
- 笠縫学区に被害が発生し、拡大する恐れがあるとき
- その他本部長が必要と認めるとき

## 【学区災害対策本部構成員】

- 本部長から指名されたもの
- その他本部長が必要と認めるもの

## 【学区災害対策本部の任務】

- 地区及び町内会間での応援調整を行い、災害時における効果的な初動対応を実現する
- 被害状況を把握し、対応方針を調整・決定する
- 学区内での災害情報の周知を行う
- 学区内での救援（ひと、モノ、情報）を調整手配する
- 草津市と被害情報の共有を行う

# 笠縫学区災害対策本部組織図

## 笠縫学区災害対策本部

学区災害対策  
本部長

笠縫学区災害対策本部の  
指揮・調整を行う

学区災害対策  
副本部長

笠縫学区災害対策本部長を  
補佐する

情報収集班

学区全体の被害に関する  
情報を収集する

応援調整班

町内会からの応援の受  
入と他町内会への応援  
を依頼する

市役所連絡班

市役所との連絡・調整  
を行い、必要に応じて  
町内会へ情報を共有する

町内会

草津市  
危機管理課

# 笠縫学区対策本部体制

年 月 日現在

No	担当			氏名	行 動	
1	<b>A</b>	A1	本部長	まち協 会長	<p>★町内会長に、笠縫まちづくりセンターで災害対策本部立ち上げのため、<b>センターに直行する旨を報告後</b>、速やかにセンターに向かう</p> <p>■災対本部設営（センター到着次第）</p> <p>■<b>学区災害対策本部設置宣言</b>（9：30）</p> <p>■意思決定</p>	
2	<b>B</b>	B1	副本部長	情報収集・応援指令 まち協 副会長・会計	統括	<p>★町内会長に、笠縫まちづくりセンターで災害対策本部立ち上げのため、<b>センターに直行する旨を報告後</b>、速やかにセンターに向かう</p> <p>■災対本部設営（センター到着次第）</p> <p>■「情報収集班」から渡された【様式1】の原紙の記載情報を《付箋》に記入し、【<b>拡大白地図</b>】へ貼り付け</p> <p>■【<b>拡大様式2</b>】【<b>拡大白地図</b>】をもって、学区全体（各町内会）の被災状況・応援要否・安否確認等の分析を実施、対応を検討</p>
3		B2				
4		B3				
5		B4				
6		B5				
7	<b>C</b>	C1	情報収集班	班長	<p>★町内会長に、笠縫まちづくりセンターで災害対策本部立ち上げのため、<b>センターに直行する旨を報告後</b>、速やかにセンターに向かう</p> <p>■災対本部設営（センター到着次第）</p> <p>■【<b>様式1</b>】に基づく各町内会からの報告《<b>電話・メール・FAX・直接持参</b>》を受け取り次第、【<b>拡大様式2</b>】（拡大コピー/ホワイトボード貼付）へ順次転記《<b>電話</b>》報告分は聞き取って、<b>予備の【様式1】</b>に記入のうえ【<b>拡大様式2</b>】へ転記</p> <p>■9時50分時点で<b>未報告の町内会</b>があれば、<b>町内会（長）</b>へ電話/聞き取りし、<b>予備の【様式1】</b>に記入のうえ【<b>拡大様式2</b>】へ転記して完成させる（10時完了）</p> <p>■【<b>拡大様式2</b>】へ転記済みの【<b>様式1</b>】原紙は、<b>逐次「副本部長」へ渡す</b></p> <p>■副本部長支援（【<b>拡大白地図</b>】の《付箋》作成支援）</p>	
8		C2				
9		C3				
10		C4				
11		C5				
12	<b>D</b>	D1	応援調整班	班長	<p>★町内会長に、笠縫まちづくりセンターで災害対策本部立ち上げのため、<b>センターに直行する旨を報告後</b>、速やかにセンターへ赴く</p> <p>■災対本部設営（センター到着次第）</p> <p>■副本部長の指示に基づき、<b>応援要請</b>（初期消火・人命救助・要配慮者等）<b>している町内会（長）</b>へ電話して<b>詳細確認</b>のうえ副本部長へ伝達</p> <p>■副本部長の指示に基づき、<b>応援要請/応援出動の各町内会（長）</b>へ<b>連絡</b></p> <p>■<b>応援出動した町内会（長）</b>からの《<b>到着</b>》《<b>終了</b>》報告を受ける</p>	
13		D2				
14		D3				
15		D4				

No	担当			氏名	行動
16	Z	Z1	事務局員	災対本部支援	(市役所より公用携帯2台借用) ■センター開錠 (9:10) ■災対本部設営 (センター到着次第) ■災対本部各班支援
17		Z2			
18		Z3			■1F事務局にて【様式1】に基づく各町内会からの報告《メール・FAX》を受信、プリントアウトして2F「情報収集班」へ渡す (10時にて終了。災対本部へ合流し、各班支援)
19		Z4			
20		Z5			

# 地震発生直後の行動

## 学区災害対策本部（共助）

- 学区災害対策本部を立ち上げる。
- 学区災害対策本部要員は本部まで参集する。
- 各町内会の状況を収集し、町内会間での応援調整を行う。
- 各町内会災害対策本部長、市役所から情報を収集し、必要に応じて学区全体で情報共有する。
- 各避難所との連絡調整を行う。

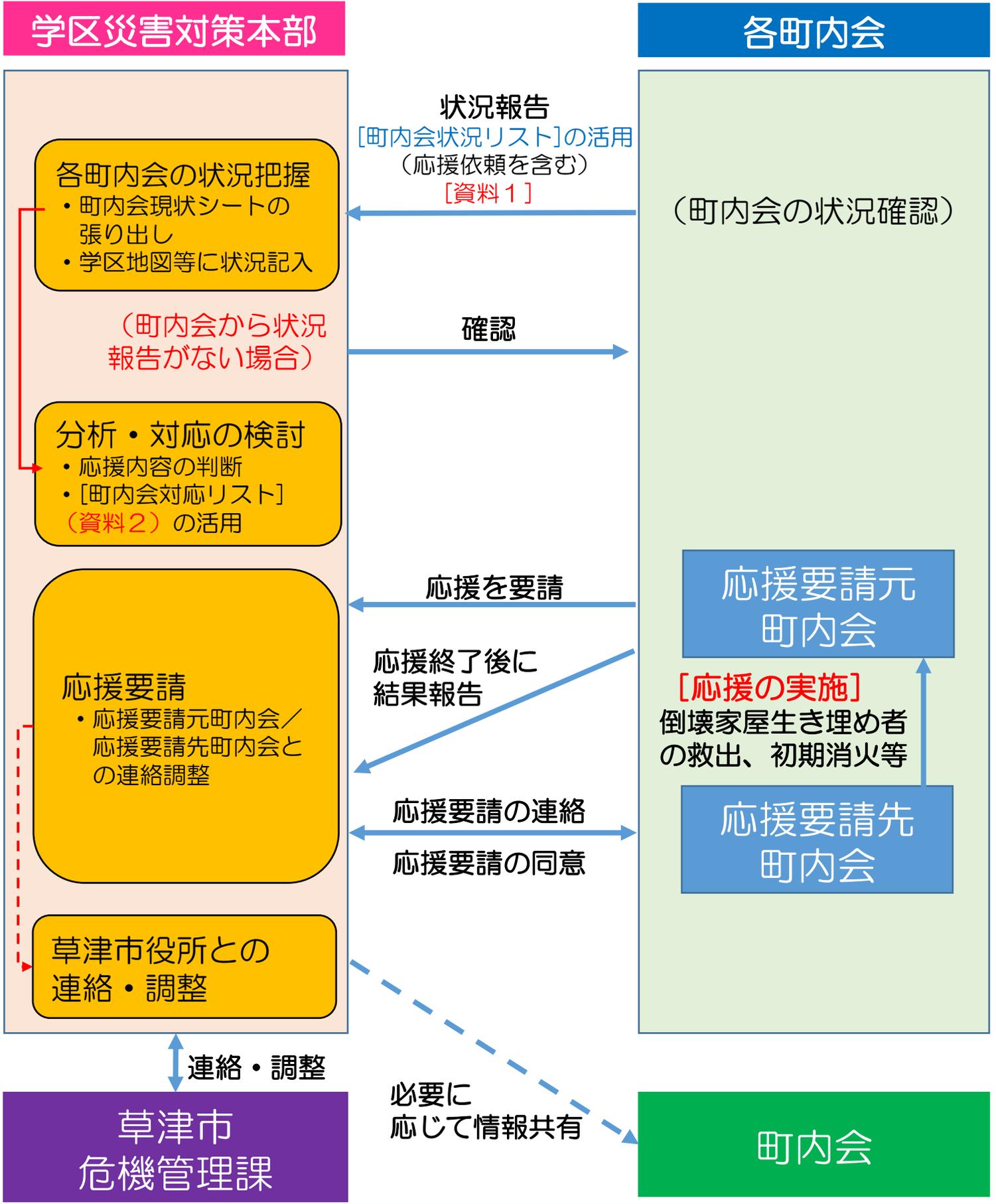
## 個人（自助）

- 落ちついて自分の身を守る
- 家族の安否を確認  
⇒ 助けが必要なときは、  
大声で助けを求める
- 火の始末の確認
- ドアを開け、避難路を確保
- テレビやラジオで情報収集
- 避難場所を確認
- 一次集合場所へ避難

## 町内会（共助）

- 町内会役員は一次集合場所に集合
- 町内会単位で安否確認  
⇒ 要配慮者に支援の必要の有無を確認
- 建物の倒壊や火災の発生がないか確認  
⇒ 救出や消火活動の実施  
⇒ 助けが必要な場合は、学区災害対策本部に要請
- 防災資機材の準備
- 安全な避難ルートの確認

# 初動期における活動の流れ



# 町内会と学区災害対策本部間で やり取りする情報

## 【町内会からの情報】

- 被災状況に関する情報（全壊家屋、火災、負傷、道路損壊）を学区災害対策本部へ提供する。
- 安否確認に関する情報（安否確認の完了の有無、不明世帯数）を学区災害対策本部へ提供する。
- 他町内会等への支援の要否（初期消火、人命救助、災害時要援護者支援、その他）を学区災害対策本部へ要請する。

## 【学区災害対策本部からの情報】

- 学区の被害情報や草津市からの情報を各町内会に周知する。
- 応援要請を町内会へ依頼する。

# 被害状況報告（町内会の動きと流れ）

草津市内で震度6強の地震発生

【町内会全住民】 → 避難開始  
一次集合場所( )へ  
速やかに避難

【町内会防災役員】  
住民の安否・被災状況確認、支援  
の要否を判断。  
《様式1》被災状況報告書記入



《様式1》を学区災害対策本部に  
報告する。

## 被害状況報告 町内会の動きと流れ

※震度6弱以上規模の地震発生時に  
[防災対策委員会]を設置する。

【報告方法】

メール(スマホからの写メOK)・FAX・直接持参・電  
話のいずれか(電話は混雑する恐れあり)

## 応援要請／応援出動

【応援要請】  
町内会

本部より応援者派遣す  
る旨の連絡あり  
集合場所を報告する。

本部より応援者名(町内会)  
の連絡あり。

作業中

応援作業終了の旨を本部へ報告

【応援出動】  
町内会

本部より被害町内会への応援  
出動要請あり→被害町内会の  
集合場所へ行く

被害町内会に到着の旨、本部  
へ報告 → 応援作業開始

応援

# 【様式1】被害状況報告用紙

〈様式1〉

## 被害状況報告用紙

《連絡先》学区災害対策本部（笠縫まちづくりセンター）

【TEL】

【FAX】077-562-0071

【メール】kasanui@machikyou.jp

報告者（氏名）		月 日 時 分 現在
町内会名		
連絡先番号		

被災状況	全壊家屋	有 ・ 無	被害内容等
	火災	有 ・ 無	被害内容等
	負傷	有 ・ 無	被害内容等
	道路損壊	有 ・ 無	被害内容等
応援要否	初期消火	要 ・ 否	【自由記述】
	人命救助	要 ・ 否	
	災害時 要配慮者	要 ・ 否	
安否確認	済 ・ 未		
	( ) 世帯不明		
	( ) 世帯在宅避難		

【学区災害対策本部記入欄】

(本部)

時 分 受信

# 【様式2】学区被害状況一覧

## 〈様式2〉

## 学区被害状況一覧

記入者	月 日 時 分現在
-----	-----------

地区名	町内会名	受信時刻	被害状況				応援要否				安否確認	被害状況欄
			全壊家屋	火災	負傷	道路損壊	初期消火	人命救助	要配慮者			
上笠	上笠町第一	:										
	上笠町第二	:										
	上笠町第三	:										
	上笠町第四	:										
	上笠町第五	:										
	上笠町第六	:										
	0・Hプラザ草津	:										
	笠縫団地	:										
野村	野村西町	:										
	野村南町	:										
	丸ノ内町	:										
	野村中央町	:										
下笠	下笠町馬場	:										
	下笠町下出	:										
	下笠町井之元	:										
	下笠町市場	:										
	下笠町北出	:										
	下笠町寺内	:										
	下笠町南出	:										
	下笠町小屋場	:										
	下笠町浜	:										
	下笠町松原	:										
	松陽台	:										
	1-11アウツ下笠	:										
	合計											